

大正八年二月十五日調

千九百十九年巴里講和會議ノ經過ニ關スル調書 (其二)

(自二月一日至同月十日)

外務省政務局

目次

經過一覽

經過詳報

一、講和打合會	五
二、最高軍事會議	一五
三、國際聯盟委員會	二五
四、損害補償委員會	三五
五、開戰責任及制裁調查委員會(責任委員會)	三九
六、港灣水路及鐵道ニ關スル國際研究委員會(交通委員會)	四三
七、財政委員會	四五
八、經濟委員會	四七
九、國際勞働法委員會	四九

備考 國際聯盟委員會、損害補償委員會、責任委員會、交通委員會及國際勞働法委員會ノ設置ハ一月二十

五日ノ聯合與國總會議ニ於テ、財政委員會及經濟委員會ノ設置ハ一月二十四日ノ講和打合會ニ於テ

夫レ夫レ決定セラレタルモノナリ

千九百十九年巴里講和會議經過一覽(其二)

時 日	會 議 ノ 性 質	參 列 國	議 事
二月一日	講和打合會(第十五次) (爾後連日開催)	米英佛伊日 及小國委員	<p>甲、過激派招致問題</p> <p>乙、波蘭派遣使節等ノ件</p> <p>丙、羅馬尼問題</p> <p>「ウヰルソン」ノ國際聯盟案提出及之ニ對スル論議</p> <p>(爾後ノ重要議事)</p> <p>(一) 國際聯盟ノ名稱</p> <p>(二) 執行委員會ノ構成異議</p> <p>(三) 小國委員增加</p> <p>(四) 聯盟新加入國ノ具備スヘキ條件</p> <p>イ、民主的タルヲ要スルヤ</p> <p>ロ、獨逸等ノ加入條件</p> <p>(五) 牧野男ノ聯盟案修正提議</p> <p>(六) 徵兵制度廢止攻究ノ項削除並軍備制限問題</p>
二月三日	國際勞働法委員會 (第一次)	米英佛伊日 白、チエツク、波、玖、委員	<p>甲、佛勞働大臣演說</p> <p>乙、委員會手續ヲ定ム</p>
二月三日	講和打合會(第十六次)	米英佛伊日 ノ外 乙、希臘代表者	<p>甲、諸委員會小國委員增加ノ件</p> <p>乙、希臘ノ領土要求聽取</p>

二月四日	責任委員會(第一次)	米英佛伊日 白塞羅希波 委員	甲、役員選定 乙、三分科會設置 丙、議事公表 丁、犯行史料、犯行者引渡、犯行者名簿
	損害補償委員會(第一次)	米英佛伊日 白希波塞羅 委員	甲、役員選舉 乙、議事進行ノ件
	交通委員會(第一次)	米英佛伊日 白伯支塞爾 委員	甲、役員指名 乙、會議ノ基礎案問題 注意 支那ト本委員會
	講和打合會(第十七次)	米英佛伊日	希臘問題 希、伊首相陳述 特別委員會設置
	損害補償委員會(第二次)	前回ニ同シ	甲、五國委員打合會(午前) 乙、委員本會議(午後)
	財政委員會(第一次)	英佛伊日	(一) 委員增加 (二) 書記局、會議錄、正式用語 (三) 三分科會ノ設置 (四) 專門顧問及專門家 (五) 賠償範圍等ニ關スル原則決定方法
	國際勞働法委員會(第二次) (爾後引續開催)	前回ニ同シ	甲、役員選定 乙、國際聯盟財政部案調查報告主任 丙、討議事項研究 英、佛、米、伊各自國案ノ提出討議

二月五日	講和打合會(第十八次)	米英佛伊日 「チエツク」 ノ外 委員	「チエツク」ノ要求聽取 專門委員ノ調査ニ附ス
二月六日	損害補償委員會(第三次) 經濟委員會(第一次) 講和打合會(第十九次)	米英佛伊日 米英佛伊日 ノ外 「ヘツヂア ス」王子	補償原則草案討議 假議長推薦 亞刺比亞「ヘツヂアス」王子ノ談話聽取
二月七日	最高軍事會議 責任委員會(第二次)	大體前回ニ 同シ 前回ニ同シ	獨逸軍隊並軍器減少問題 甲、分科及各委員ノ所屬 乙、議事規則制定 丙、休戰條件ニ不正敵國人等ノ交附義務ヲ附 加スルノ件
二月八日	最高軍事會議	前回ニ同シ	甲、獨國民議會ノ爲選舉人ニ便宜供與ノ件 乙、獨逸俘虜放還ノ件 丙、獨逸兵器押收問題 丁、講和假條約挿入條件ヲ定ムルノ議 戊、最高經濟會議設置 趣意書草案討議
二月十日	經濟委員會(第二次) 最高軍事會議	米英佛伊日 前回ニ同シ	甲、獨逸休戰條約不履行善後方法 乙、休戰條約中ニ不正敵國人引渡義務ヲ定ム ルノ件 丙、工業材料等ノ供給ニ付佛國ノ優先權希望

損害補償委員會（第四次）

交通委員會（第二次）

甲 分科會所屬委員任命
乙 補償原則各國覺書提出

分科會設置

五國講和打合會

○講和ニ關スル二月一日第十五次打合會

一、日 時 二月一日自午後三時

一、議 題

甲、過激派摺致問題

勞農政府外務大臣「チチエリン」ヨリ「ク井ルソン」大統領ニ宛電報ノ朗讀アリ同大臣ハ「プリンセス」島ニ露國各派ノ代表者ヲ招集スルコトヲ新聞ニテ承知シタルモ未タ正式ノ案内ニ接セサルヲ以テ之ニ應スヘキヤ否ヤヲ知ラストノ趣旨ナリ「ウ井ルソン」氏ハ之ヲ表向案内スルモノトスレハ「ソビエツト」ヲ承認スルコトトナルヘキニ付如何ニスヘキヤト諮リタルニ本日ハ他ニモ日程ノ存スルニ付兎モ角其ノ儘ニナシ置クコトトセリ

乙、波蘭派遣使節ニ關スル件其ノ他ニ付二三相談アリ

丙、羅馬尼問題（同國全權「ブラシヤノ」及「ミシユ」兩氏參列）

（一）、羅國「ブラシヤノ」氏ノ陳述

イ、羅國ノ功績

氏ハ戰爭前羅馬尼ノ政治經濟狀態ノ良好ナリシコト戰爭ニ關シテハ中歐帝國ノ如キ侵略國ト提携スル能ハサリシコト聯合國側ニ對シ好意の中立ヲ守リシコトヲ縷述シ一九一六年聯合側密約及軍事協約ヲ締結シ參戰スルニ至リタルコトヨリ戰爭中ノ苦戰、露國ノ崩潰ニヨリ全土ヲ擧ケテ敵ノ蹂躪ニ委セサルヲ得サルニ至リ已ムヲ得ス「ブカレスト」條約ヲ締結シタル事情及羅馬尼ノ損傷犠牲ヲ掲ケ今日ハ聯合側ノ正義ニ信賴シ右密約ニ從ヒ自國ノ希

望ヲ達セムトスルモノナルコトヲ述ヘ

ロ、羅國ノ領土要求

次テ「トランシルバニア」「ブコヴィナ」「ベッサラビア」ノ人口カ極メテ大部分羅馬人ナルコト、該地方ノ人民ハ塊地利ノ崩壊乃至露國ノ紛亂ヲ見ルニ至ルヤ何レモ羅馬人ニ結合セムコトヲ自決セルコト、羅馬人ハ尙右地方以外ニモ多數棲息シ居ルモ敢テ悉ク此等ヲ合併セムトスルモノニ非サルコトヲ陳述シ尙「ロイド、ジョージ」ヨリ右等地方人カ結合ノ決議ヲ爲シタルハ無條件ノ結合ナリヤ否ヤ等ノ質問ニ對シテハ氏ハ地方ニヨリ多少異ナリタル所アルモ大體結合ヲ切望セルコト該地方ニシテ羅國境ニ接シタル所ヲ除キ他ハ既ニ「ボルセウヰク」蔓延シツツアル状態ヲ述ヘテ右問題ノ速ナル決定ヲ求メタリ

(二)、本問題ヲ専門家ノ研究ニ委スルコトノ決定

「ロイド、ジョージ」「ウヰルソン」氏ハ本問題ハ各國既ニ専門的ニ研究シツアル次第ニ付一應此等ノ人々ヲシテ相互ニ意見ヲ交換シ其ノ所見ヲ五國全權委員ニ説明セシムルコトトシテハ如何トノ發議アリ伊國委員ハ最初之ヲ難スル色アリシモ遂ニ讓合ヒ發議ノ通決定ス

(三)、羅國トノ祕密條約ヲ尊重スル義務ノ有無

「ブラシアノ」退去後伊國「オルランド」カ英佛伊ハ千九百十六年ノ祕密條約ヲ尊重スルノ義務アリト謂ヘルニ對シ「クレマンソウ」「ロイド、ジョージ」共羅國ハ既ニ「ブカレスト」條約ニ依リ一時單獨講和ヲ爲シタルモノナレハ右祕密條約ハ其ノ效力ヲ失ヒタルモノナリト言ヘルハ注目ニ値ス

○講和ニ關スル二月三日第十六次打合會

一、日 時 二月三日自午前十一時

一、議題

甲、各委員會小國委員增加ノ件

既定委員ノ外尙

- (一) 國際聯盟委員會ヘ「チエツク、スローヴァツク」、波蘭、希臘、羅馬尼ヨリ各一名
 - (二) 國際交通路委員會ヘ羅馬尼、葡萄牙、波蘭、「チエツク、スローヴァツク」ヨリ各一名
 - (三) 損害補償委員會ヘ「チエツク」ヨリ二名
- ヲ出シタシトノ請求アリ(一)(二)ハ之ヲ該委員會ニテ決定セシムルコトトシ(三)ハ直チニ承諾セラル

乙、希臘ノ領土要求聽取(希臘代表者「ヴエネゼロス」以下出席)

「ヴエ」氏説明ノ要領

希臘人ノ住居セル地方ノ併合所謂「ヘレニズム」ヲ場所ニ依リ巧ニ或ハ希臘人ノ過半数ナルコト或ハ住民ノ決意或ハ歴史的關係ニ基キテ説明シ

- (一) 「アルバニア」地方ニ於テハ北「エビロス」ノ併合ヲ主張シ
- (二) 「スレーズ」ニ於テハ「ブカレスト」條約ニ依ル併合地ハ勿論其ノ以東ニ擴張シ「マリチア」河ノ西南地方(即勃爾牙人多數ヲ占ムル地方)並同河以東土耳其領ヲモ要求シ唯「コンスタンチノーブル」及「マルモラ」海岸ニ關シテハ國際聯盟ノ處分ニ委シ
- (三) 多島海諸島就中「ドデカネッス」群島「ローズ」島其ノ他ヲ要求シ「サイプラス」島ニ付テハ希臘ノ復活、領土擴張ニ同情セル英國ノ意ニ從フヘシト輕ク言明セリ

○講和ニ關スル二月四日第十七次打合會

一、日時 二月四日午前十一時

二、内容 希臘問題

(一) 希臘首相「ヴエネゼロス」ノ要求説明

甲、併合要求ノ範圍

一、小亞細亞ノ西部「スミルナ」ヲ中心トスル「ブラウセ」「フランス州」(但シ「ビーガ」「Erythra地方ヲ除ク)

二、「ダルダネルス」海峡ノ關係

三、「エーゲヤン」沿海ノ諸島「イムブロス」「Imbros」「マトノス」「Lemnos」「ミチレオン」「Mitylene」「サモス」「Samos

「ローズ」「Rhodes」等ヲ含ム)

乙、理由

一、地勢上

他ノ地方ヨリ特殊分立セルコト

二、文化上

三、希臘人カ多數ナルコト

(二) 右ニ對スル「ロイド、ジョージ」其ノ他ヨリノ質問

甲、アルメニア人トノ關係如何

乙、土耳其人トノ關係如何

「ヴエネゼロス」首相

一、東部六州其ノ他ヲ「アルメニア」

小亞細亞問題ハ二、中部「アルメニア」ヲ土耳其

三、西部沿岸ヲ希臘領

トスルコトニ歸着ス

(四) 伊太利首相「オルランド」氏ノ陳述

此際希臘ノ要求ト關係アル問題ニ付テハ同國ト協定シ得ルモノトノ自信アリ

(發電者ノ意見、开ハ「エビロス」「スミルナ」及群島ニ關スルモノト推セラル)

(五) 「ロイド、ジョージ」氏ノ提案

希臘代表者退出後同國ノ要求ニ關聯シ起ル諸問題調節案研究ノ爲ニ特別委員會ヲ組織シ米、英、佛、伊四國ヨリ各

二名ヲ選出スルノ案ニ可決散會

○講和ニ關スル二月五日第十八次打合せ

一、開會日時 二月五日自午後三時

一、出席者 五大國委員

「チエツク」委員（首相「クラマルツ」、外相「ベネス」）

一、内 容 「チエツク」外相「ベネス」ノ「チエツク」要求及希望陳述聽取

甲「チエツク」ノ要求

第一、領土ノ要求及其ノ範圍

- (1) 「ボヘミヤ」
- (2) 「モラビヤ」
- (3) 「オーストリアン、シレシヤ」
- (4) 「スロバキヤ」(註参照)
- (5) 右四州ヲ中心トシテ隣接「チエツク」居住地域
- (6) 「ボヘミヤ」ヨリ獨逸國境森林ニ到ル地域
- (7) 「テツシエン」
- (8) 「テツシエン」ヨリ「スロバキヤ」ニ到ル鐵道沿線地帯

(註) (4) 「スロバキヤ」ノ境域ハ西南ハ「ドナウ」河ニ達シ「ワイツメン」Waizen 曲リ角ヨリ上流「スローヴァツク」人居住地方ニ到リ又「ワイツメン」Waizen ヨリ東北「スローヴァツク」人居住地帯一圓トスルコト

第二、要求ノ理由

- A 前項(1)乃至(4)ハ古來ヨリ「チエツク」人居住シ數十年來一國建設ノ爲運動シ來レリ
 - B 前項(5)隣接「チエツク」居住地帯ハ四州ト去就ヲ共ニスルコト適當ナリ
 - C 前項(6)地方ハ工業地ニシテ奥國工業ノ大部分ハ「ボヘミヤ」ノ手中ニ在ルニヨル
 - D 前項(7)「チッシェン」地方ハ石炭ノ產地ニシテ從ツテ此ノ地方ノ領有ハ「チエツク」ノ經濟的生存上必要ナリ
 - E 前項(8)鐵道及沿線地帯ハ「チエツク」ト「スローヴァツク」トノ結合維持上必要ナリ
- 乙、「チエツク」ノ希望、及參考事實

- 一、「スロバキヤ」ノ東方ニ居住スル多數「ルウチン」人ヲシテ自治國ヲ形成セシメ「チエツク、スローヴァツク」聯邦ニ加盟セシムルヲ可トスヘシ
 - 二、「チエツク、スローヴァツク」獨立ノ上ハ「アドリア」海ニ出口ヲ得ルコト極メテ必要ナリ
 - 三、「ボヘミヤ」ノ北「ルース」地方ニ二十五萬ノ塞爾比人アリ今回獨立運動ヲ起シ「チエツク、スローヴァツク」ニ手繰リ居レリ
- 丙、五大國ノ決議

前照「チエツク」委員ノ陳述ハ之ヲ米英佛伊(各二名)專門委員ノ調査ニ附シ報告セシムルコトトナシタリ

○講和ニ關スル二月六日第十九次打合會

一、日時 二月六日自午後一時

二、内容 亞刺比亞「ヘツヂアス」王王子「エミール、フアイサル」ノ談話聽取

(一)、要旨

亞刺比亞ハ國ヲ成シテ既ニ永ク歴史ヲ有シ一人種ヨリ成リ同國語ヲ使用シ全國協力シテ社會上經濟上ノ統一ヲ保テルニ拘ハラズ過去四百年間土耳其ノ虐政ニ苦シメリ此ノ奴隸ノ狀況ヨリ脱セムカ爲今回ノ戰爭ニ當リ父王ハ聯合側ニ立テテ戦ヒ千九百十(脱)年戦後獨立ノ保障ヲ得ルニ至レル次第ナリ亞刺比亞ハ大ナル犠牲ヲ拂ヒテ土耳其兵四萬ノ俘虜ヲ得大ナル成功ヲ收メタリ前記保障ニ從ヒ亞刺比亞ニ獨立ヲ與ヘ且ツ地中海沿岸「シリヤ」一帯及北方「アレキサンデルタ」ニ至ル地方ノ土地ヲ領有スルコトト致シ度シ

(二)、「ウヰルソン」質問

「ウヰルソン」 若シ亞刺比亞地方ヲ委任統治ノ下ニ置クトセハ受任者一人トスヘキカ二人トスヘキカ
 「フアイサル」 自國民ハ獨立ヲ希望シ亞刺比亞ノ結合ヲ目的トスルモノナリ從テ右ノ點ニ付テモ全然人民ノ選擇ニ委ヌコトト致シ度シ

「ウヰルソン」 然ラハ貴下個人トシテノ意見如何

「フアイサル」 多クノ受任者ノ下ニ置クハ亞刺比亞分割ヲ招致セムコトヲ恐ル

(三)、「ロイヤ、ウォーレ」質問

亞刺比亞人勢力ノ狀況如何

「フアイサル」 戦争ニ参加セルモノノ統計ヲ缺クヲ以テ確言シ難キモ十萬ニ及フヘシ
 (四)「フアイサル」ハ又亞刺比亞獨立スルニ至ラハ各國ニ對シ機會均等ヲ與フヘント語レリ

最高軍事會議

○二月七日最高軍事會議

一、日時 二月七日

一、場所 佛國外務省

一、列席者 大體前回ニ同シ

一、議題 獨逸軍隊並軍器減少問題

○「フォッシユ」氏ハ聯合軍總司令官ノ調査ニ成ル諸報告書ヲ提出シ

聯合側兵力 (二月一日)

米軍 十二師團

佛軍 五十六師團

英軍 十二師團

合計戰闘員百六十萬

獨軍 (一月末)

戰闘員約六七十萬

ナレハ之ニテ十分ナレトモ獨逸ニハ多數ノ兵器アレハ三四百萬ノ兵ヲ集ムルコト困難ニ非スト説明シ

○「ルンショール」(工業復興大臣)

氏ハ敵國獨軍器減少問題ニ關シ獨逸現有ノ兵器中

機關銃 五萬
 野砲 八千
 重砲 二千五百

「ミーネンウエルファー」銃 四千

小銃 三百五十萬乃至四百萬

飛行機 數千

ト報告シ進ンテ右獨逸現有兵器ノ四分ノ一ヲ破壊シ兵器ノ新造ヲ禁シ「コロロン」ヨリ「デュイスブルグ」ノ北十五基米ノ地方ニ亙リ平均五十基米ノ地ヲ占領シテ「エツセン」等ノ重要製造地ヲ扼スルコトヲ以テ二月十七日休戰延長ノ條件トスルヲ可トスト説明シテ

○「フオツシユ」

「ウヰルソン」並「ロイド、ジョーシ」ヨリノ質問ニ答ヘテ獨逸側ヲシテ右等條件ヲ承諾セシムルニハ勿論威壓ヲ要スヘク兵器新造禁止ノ爲差當リ「エツセン」地方ヲ占領スルヲ要スヘク之カ爲ニハ尙十七箇師團ノ兵力ヲ要スヘシト云ヒ

○「ルシヨール」

右引揚クヘキ兵器ヲ補充スルニハ三箇年ヲ要スヘク且兵器製造材料激減ノ今日其ノ製造補充ハ極メテ困難ナルヘシ而シテ兵器製造禁止ヲ監視スル爲監督官ヲ多數製造地方ニ派スルモ一案ナルヘシ

○「ロイド、ジョーシ」

獨逸側兵器引揚ニ關スル根本問題ニ付テハ何レ平和條約締結ノ際ニハ獨逸ノ軍備解除ヲ要求セサルヘカラサル處今日休戰條約更新ノ際ヲ以テ之ヲ開始スルコト最モ時機ヲ得タルモノナリ

○「ウヰルソン」ノ獨逸側トノ協議提議

「ウ」氏ハ今日軍隊ヲ現狀ノ儘維持スルハ敵味方雙方ニ取り重大ナル負擔ナルニ付軍隊ノ復員ハ當然ノ必要アルモ之ニ基因スル無職業者激増防止ノ爲工業用材料並食料品ノ輸入及封鎖緩和ノ要アルヘク從テ「スバ」委員ノ外一ノ非軍人委員ヲ送り獨逸側ト此等ノ協議ノ任ニ當ラシムヘシ

○「ロイド、ジョーシ」(?)ノ反駁

目下ノ急務ハ戰爭ノ再發防止ニアリ右ノ如キ材料供給等ノ提議ヲ爲ストキハ獨逸側ヨリ種々ノ條件ヲ持チ出ダシ途ニ際限ナカルヘシ而モ平和條約締結ハ前途尙遠遠ナリ兵器破壊ハ今日ヲ以テ正ニ最好時期トナスヘシ

○「クレマンソウ」反駁

休戰條件議定ノ當務ハ最モ差迫リタル條件ノミヲ議定シ休戰期間延長ノ際必要ニ應シ條件ヲ追加シテ可ナリトハ自分ノ再三述ヘタル意見ナリシ處元來獨逸人ハ壓迫ヲ受ケサレハ之ニ乘スル國民ナリ現ニ波蘭ニ關シ聯合側ヨリ委員ヲ派遣スヘキカ差當リ獨逸軍ヲ攻撃スヘカラスト波蘭ニ申込ニ同國民ハ之ヲ承諾シタルニ拘ラス獨逸ハ人民保護ノ名ノ下ニ戰闘中止ノ要求ニ應スル能ハストノ回答ヲ送り來リタル有様ナリ此ノ大局ニ當リ工業材料並食料ヲ輸入シ或ハ封鎖ヲ緩和スルカ如キハ思モヨラサル所ナリ今日ハ毫モ獨逸ニ對シ溫顔ヲ示スヘキ時期ニ非ス曠山工業ハ跡無ク破壊セラレ農業ハ荒廢ニ歸シ現ニ國土蹂躪ノ慘狀ヲ目前ニ見ツツアル吾人ハ此際尙ホ安眠ヲ貪ルヘキ時期ニアラス先ツ敵側ノ武器ヲ奪ヒ以テ領土侵入ノ不可能ヲ計ラサルヘカラス若然ラスシテ工業材料並食料品ノ輸入ヲ許スカ如キコトアランニハ佛國人民ハ直ニ反抗シ政府ハ忽チ顛覆スヘシ獨逸國民議會ハ開會セラレタルカ今後獨逸政府ハ如何ナルモノナルヤ見定メ付カス今日ハ寧ロ政府無キ際ナレハ此ノ期ニ於テ我要求ヲ貫徹シ置クコト肝要ナリ

○「オルランド」モ「ウヰルソン」ノ提議ニ反對シ聯合軍側意思ノ貫徹ヲ要求セリ

○於是「ウヰルソン」ハ甚タ不興ノ顔色ナリシカ「ロイド、ジョーシ」數度ニ亙リ折衷案ヲ出シ妥協ヲ試ミタルモ「クレマンソウ」斷乎トシテ應セズ

○「ソニン」ノ提議

遂ニ「ソニン」ノ男ハ武器中ノ或物例ハハ機關銃野砲並重砲ノ如キヲ引拂クルノ案ヲ提出シ其ノ數量ニ付英佛米三國委員間ニ於テ更ニ協議ヲ遂ケ明日ノ會議ニ報告セシムルコトニ決定シ散會セリ

○二月八日最高軍事會議

一、日時 二月八日自午後三時

一、場所 佛國外務省

一、出席者 大體前日ニ同シ

但シ「ロイド、ジョージ」歸國ニ付「ロイド、ミルナー」代リテ列席、議題

甲、「ワイマール」ニ於テ國民議會ヲ開クニ付選舉人ニ交通上ノ便宜供與ノ件

右ニ關シ敵國ヨリ申出アリタルカ軍事上ノ必要ニ牴觸セサル限リ差支ナキ旨回答シ然ルヘキヤト「フォツシュ」元帥ヨリ提議アリ二三質問ノ後可決ス

乙、獨逸俘虜放還ノ件

○「フォツシュ」

獨逸ハ聯合側俘虜ハ既ニ放還シ今ハ露國及塞爾比ヲ分迄モ送還シツツアルニ付獨逸ノ俘虜（殊ニ重傷者名族ノ首長等特ニ考慮ヲ要スルモノ）モ速ニ放還セシメラレタシト「エルツベルグ」ヨリ余（フォツシュ）ニ申出アリ余ハ兎モ角右要求ヲ取次クヘキ旨ヲ回答シ置キタルカ如何ニスヘキヤ

○「クレマンソウ」

聯合側ニ於テ破壊セラレタル地方ノ復舊ニ敵國俘虜ヲ使役シ居ルノミナラス獨逸ハ佛國ノ俘虜中重傷者名族ノ首長多數ノ兒女等ヲ虐待シタルコトアルヲ以テ右要求ハ直チニ應諾スルヲ得ス夫レ夫レ關係官廳ニ問合ノ上ニアラサレハ確答ヲ與ヘ難シ

○右應答ニ付「クレマンソウ」ト「フォツシュ」ノ間ニ言葉ノ行違アリ（前回ニ於テモ兩人ノ間ニ議論アリタルカ）兩者互ニ激昂ノ末「フォツシュ」元帥ハ遂ニ退場セリ

丙、獨逸兵器押收問題

○「タルヂユ」

昨日會議ノ結果設ケラレタル獨逸兵器押收問題委員ノ報告ヲ提出ス其ノ要旨ハ獨逸國ニ殘存セシムヘキ軍（脱）ヲ何程ニ定ムヘキヤハ容易ニ決定セス又一方ニハ獨逸ニ果シテ幾何ノ兵器現存スルヤモ知リ難シ但シ機關銃二萬野砲四千門重砲千門並多數ノ飛行機「モーター」ヲ取上クルコトトセハ可ナラント云フニアリ

○「ウ井ルソ」

昨日ノ會議ニ提出セラレタル軍事會議報告ニハ獨逸ニ殘スヘキ兵數步兵二十五箇師團騎兵五箇師團ト假定シテ之ニ要スヘキ兵器ノ數ヲ擧ケタルカ之ヲ今押收セムトスル兵器ノ數ト比較スルトキハ獨逸ニハ尙多數ノ兵器殘留スルコトトナル處果シテ右ノ通ニテ可ナルヘキヤ又實際右計算ノ通押收シ得ヘキヤ數字ニ關シ疑アリ

○「ルシヨール」

昨日ノ報告中兵器ニ關スル數字ハ現ニ軍隊ニテ使用スル兵器數量ヲ示シ造兵廠及兵器廠ニ存スル分ヲ含マス加之休戰當時製造ニ着手セルモノ少カラス此等一切ヲ計上セハ昨日ノ數字ノ二倍トナルヘシ蓋休戰當時獨逸ハ一日ニ野砲五十門重機關砲二百門ノ製造能力ヲ有シタルヲ以テ今日ノ計數ニ倍スト云フモ誇張ニ非ス

○「クレマンソウ」

結局獨逸ノ有スル兵器ノ數量不明ナリ此ノ儘論議シテ如何ニスヘキカ

○「ウヰルソン」ノ提議採用

「ウ」氏ハ獨逸ニ對シ兵器數量ノ提示ヲ求ムヘク且獨逸國內ノ安全ニ必要ナル兵器ノミヲ殘シ其ノ他ノ取上クヘキモノナリト申渡セハ可ナラムト提議シタルニ「クレマンソウ」ハ目下獨逸ハ波蘭ト爭鬪セムトスル際ナルニ付獨逸ノ兵器數量ヲ質問スルモ餘リニ不當ニアラサルヘキカト謂ヒ種々議論ノ末折衷説出テ結局前記「ウヰルソン」ノ提議ノ趣旨ニテ獨逸ニ提示ヲ求ムルコトニ纏レリ

丁、講和假條約挿入條件ヲ定ムルノ議

○「ウヰムス」大將(英軍令部長)ノ提議

敵國艦隊ノ勢力ヲ此ノ上削減シ又敵國砲臺ノ抵抗カヲ失ハシムル爲海軍ニ於テ全力ヲ盡シタルモ尙ホ陸軍ノ共助ヲ得ルニ非サレハ爲シ能ハサルコトモ尠カラス面シテ一方ニハ永ク封鎖ヲ繼續スルコトハ海軍ノ兵力ヲ漸次復員セサルヘカラサル關係上益々困難トナルヲ以テ講和假條約ニ挿入スヘキ條件ヲ今日休戰條約延長ノ際原則トシテ定メ置キ度シ

○佛軍令部長モ同様ノ趣旨ヲ繰返セリ

○「バルフォア」「ウヰルソン」ノ反對

「バ」氏ハ兩將官ノ言ハ至極尤モナルモ今日ハ本問題ヲ議スル準備モ無ク且事ノ性質休戰條約ト異ナルト云ヒ「ウ」氏モ

休戰條約延長ノ際之ヲ議スルコトニ反對シタル爲右提論ハ成立セス

戊、最高經濟會議(Supreme Economic Council)設置

○「ウヰルソン」提議

從來財政食料封鎖海運及原料ノ諸問題ニ關シ聯合國間ニ協議ヲ爲シタルカ今ヤ益々其ノ必要ヲ感スルヲ以テ一ノ最高經濟會議ヲ巴里ニ設置シ休戰期間中右等ノ問題ヲ處理セシムルコト、ナシ既成ノ機關ヲ併合スルカ又ハ之ニ代ラシム

ル爲各國ヨリ五人ヲ超エサル代表者ヲ出タシ又右ノ外國際休戰委員ヲ二名ノ「シビリヤン」(非軍人)代表者ノ附屬セシメ時々右最高經濟會議ニ報告セシムルコトトスヘシ

○右異議ナク可決

○二月十日最高軍事會議

一、日 時 二月十日午後三時

一、議 題 休戰條約更新ニ關聯セル諸問題

甲、獨逸ノ休戰條約不履行ニ付善後方法討議

イ、佛藏相「クロツツ」ノ提議

獨逸カ客年十二月第一回休戰條約更新ノ際佛獨兩國間ニ調印セラレタル財政ニ關スル協定中第三及第四兩條ヲ履行シ居ラサルコトヲ述ヘ之ヲ履行セシメムカ爲新休戰條約中一條項ヲ設ケムコトヲ提議セリ

(註) 第三條第一項ニ依レハ獨逸政府ハ「アルサス、ローレン」人ニ對シ休戰期間繼續中仕拂期限到來シ若ハ到來スルコトアリ且獨逸公有金庫ト關係アル各種ノ債務若ハ手形等ヲ其ノ期限ニ於テ且現行法ニ從ヒ辨濟スルノ義務アリ又第二項ニ依レハ獨逸政府ハ「アルサス、ローレン」人若其ノ獨逸政府内ニ所有スル財產有價證券預金ヲ自由ニ處分セントスルニ當リ何等ノ妨害ヲモ加ヘサルコト、第四條ニ依レハ獨逸政府ハ差押ヘラレ居ル協商國臣民ノ財產ヲ成ルヘク速ニ回復スル爲執ルヘキ措置ニ付協商政府ト協同審査スルコト

ロ、米「ウヰルソン」

差當リ吾人等ハ此ノ事柄ニ通曉シ居ラサルニ付之カ審議ヲ昨日決議セラレタル最高經濟會議ニ移サハ如何ト述ヘ議

場ニ諮リツツアリシ折柄

ハ、英「バルフォア」

休戰條約中海軍ニ關スル條項ノ履行セラレサルモノモアリテ之カ履行ヲ強要スルカ爲ニハ當ニ海軍ノミナラス陸軍ノ協力ヲモ要スルモノナルニ付總テ此ノ休戰條約ノ不履行ニ對シテハ何等カノ方法ヲ講セサルヘカラサルコトヲ指摘セシニ付

ニ、米「ウヰルソン」

陸軍ノ協力ヲ要ストハ如何假令建造中ノ潜水艇引渡未済ノ故ヲ以テ其ノ造船所ヲ占領スル等ノ事柄ヲ指スモノナリヤト海軍中將「ホープ」ニ問ヒタルカ

ホ、海軍中將「ホープ」ハ

之カ爲漢堡「ブレイメン」等ヲ占領スルハ困難ナリトテ確明ノ答ヲ爲サス

ヘ、米「ウヰルソン」

右財政上ノ條項ト言ヒ海軍關係ノ條項ト言ヒ之ヲ履行セシムルノ方法ニ付差當リ提案ナキモ例ヘハ海軍關係ノ條項不履行ナリト直チニ兵力ヲ用ヰス財政上ノ條項ト共ニ食糧其ノ他ノ材料ノ供給ヲ絶ツ等經濟手段ニ訴ヘ其ノ履行ヲ促ス手段モアラム兎ニ角此ノ儘ニ放任シ置ク譯ニハ行カサルモ去リトテ餘リニ壓迫ヲ加フルトキハ不承諾ノ場合休戰條約破レテ再ヒ戰爭トナルノ虞アリ然レトモ今ヤ世界何國ト雖再戰ノ意志疑ハシキモノアルニ當リ之レ重大ナル責任ヲ負フモノナリト述ヘ

ト、佛「クレマンソウ」

近來獨逸ノ態度又々傲慢トナリ來リタルコトハ波蘭問題ニ對スル往復「プロツクドルフ、ランツアウ」「エベルト」ノ演說ニ徴シテモ明白ニシテ我等ニ於テモ今回ノ休戰延期ニ關シテモ大ニ熟慮ヲ要スルモノナリト言ヒ

チ、「フオツシュ」「バルフォア」「ウヰルソン」「ビション」諸氏ノ間ニ意見ノ交換アリ

以上ノ問題ニ付テハ一應陸軍ノ協力ヲ要スルモノナルヲ以テ五大國ノ陸軍委員及經濟委員各一名ヨリ成ル一委員會ヲ設ク本十日夕直チニ本問題善後方法ノ講究ニ着手シ可成來ル十二日朝軍事會議再開ニ至ル迄ニ其ノ結果ヲ報告スヘキコトトナリ依テ日本ヨリハ右委員トシテ田中少將及森財務官ヲ指定シ同日午後六時右委員會ヲ開キタリ

乙、休戰條件中ニ不可敵國人引渡義務ヲ定ムルノ件

イ、英「バルフォア」

二月七日責任會關係問題ニ關シ休戰條約更新ノ際戰爭中非人道的行爲ヲ爲セル敵國人ノ人名ヲ求メ之ヲ聯合國ヘ引渡スヘキコトヲ要求スヘシトノ英國「ソリシター、ゼネラル」ノ意見ヲ取次キ尙「ランシング」ノ意見ニテハ右ハ休戰條約ニ際シ持出スヘキモノニアラスト承知シ自分モ「ラ」氏ト見解ヲ同シフスルモノナルカ兎ニ角「ソリシター、ゼネラル」ノ熱心ニ願ミ一應會議ノ所見ヲ問フヘキ旨述ヘシニ

ロ、「ウヰルソン」氏ハ右ハ矢張講和條約上ノ問題ニシテ休戰條約上ノ問題ニ非ストノ意見ヲ述ヘ

ハ、一同之ニ同意ス

丙、工業材料等ノ供給ニ付佛國ノ優先權希望

佛國藏相「クロツツ」

本問題ハ封鎖問題ニ關聯シ聯合國經濟委員ニ於テ考究セララルコトトナルヘキカ茲ニ豫メ大國間ノ承認ヲ請ヒ置クヘキ重大事ナリト述ヘ獨逸ハ戰爭中佛國工業ヲ組織的ニ破壞シタルカ其ノ結果ニ付テハ獨逸側ノ報告ヲ入手セリトテ其ノ要點ヲ讀ミ上ケ此ノ如ク獨逸ハ特ニ佛國工業ノ破壞ヲ敢行シタルヲ以テ工業材料機械等ノ供給ニ當リテハ佛國ニ優先權ヲ與ヘラレンコトヲ希望スト述ヘタリ

國際聯盟委員會

○國際聯盟委員會第一次非公式會合

一、日時 二月三日自午後二時半

一、場所 「ホテル、クリヨン」(米國全權委員旅館)

一、招請者 「ウヰルソン」

一、列席者

日本 牧野男、珍田大使

米國 「ウヰルソン」、「ハウス」

英國 「セシル」卿、「スマッツ」

佛國 「アルシヨア」

伊國 「オルランド」

小國委員 (支那ヨリハ顧維鈞)

一、議題、國際聯盟案

(一)、米「ウヰルソン」ノ聯盟草案提出

「ウ」氏ハ聯盟組織ニ關シ英米佛伊各國内ニ於テ組織セラレタル國際聯盟講究會ニ於テ夫々作製セル提案ノ内容ヲ深ク講究シタルニ其内容大體相接近シ居ルコトヲ認メタルヲ以テ茲ニ討議ノ基礎トナルヘキ一ノ草案ヲ作成シタル旨ヲ述ヘ印刷物ヲ一同ニ配布シタリ其ノ内容次ノ如シ

本盟約ニ調印セル各國ハ武力不使用ノ責務ヲ引受ケ國民間ニ於テ公開正當且誠實ナル關係ヲ維持シ政府間ニ於ケル行動ノ實際基準トシテ國際法ノ諒解ヲ確立シ各國相互間ニ於テ正義並條約上ノ義務絕對尊重ノ主義ヲ確保シ以テ國際間ノ平和安寧ヲ確立シ且國際協調ノ進歩ヲ計ラムカ爲茲ニ左記國際聯盟ノ規約ヲ採用ス

第一條 聯盟國ハ本盟約ノ規定ニ從ヒ締盟國代表者ノ會合當該事件ニ一層直接ノ關係アル諸國ヲ代表スル執行委員會ノ會合(同執行委員會ノ會合ハ前記締盟國代表者ノ會合ヨリモ一層頻繁ニ開催セラルルモノトス)及聯盟ノ首都ニ設置セラルルニキ常設國際書記局ヲ經テ行動スルモノトス

第二條 代表者團ハ聯盟ノ行動範圍内ニ於ケル事件ヲ處理スル爲必要ニ應シ隨時會合ヲ催スモノトス代表者團ノ會合ハ聯盟ノ首都或ハ便宜ト思惟セラルル場所ニ於テ之ヲ開催シ締盟國ヨリ各二名ヲ超過セサル代表者ヲ出シ之ヲ組織ス各締盟國ノ大使又ハ公使ハ其ノ國ノ代表者トシテ行動スル權能ヲ有ス

代表者團會合ニ關スル一切ノ手續並特殊事項研究委員ノ任命ハ代表者團ニヨリ(不明)右會合出席者ノ多數決ニ依リ決定セラルルコトヲ得

第三條 聯盟ハ其ノ行動範圍内ニ於ケル事項ニ直接關係アル聯盟員ノ申出ニ基キ必要ニ應シ執行委員會ノ資格ニ於テ隨時會合ヲ催スモノトス

米國、英國、佛國、伊國及日本國ハ聯盟ノ行動範圍内ニ於ケル一切ノ事件ニ直接關係ヲ有スルモノト看做ス會合參加ノ招請ハ直接ノ利害關係ヲ有スル何レノ國ニ對シテモ之ヲ發セラルルモノトス前記會合ノ決定ハ其ノ會合ニ列席方招請ヲ受ケサリシ國ニ對シテハ何等拘束力ヲ有セサルハシ

前記會合ハ隨時決定セラルルヘキ場所或ハ右ノ決定ナキ場合ハ聯盟ノ首都ニ於テ之ヲ開催シ聯盟ノ利害ニ關係スル事件

或ハ聯盟ノ行動範圍内ノ事件並世界ノ平和ニ關係アリト認メララルル事件ヲ處理スルモノトス

第四條 聯盟ノ常設書記局ハ聯盟ノ首都タルヘキニ設ケラル可シ書記局ハ聯盟主事ノ一般の指導並勸告ニ基キ必要ト認メララルル書記官及屬員ヨリ組織セラレ該書記官及屬員ハ聯盟主事ニ依リ任命セラルルモノトス

聯盟主事ハ代表者團或ハ執行委員會ノ一切ノ會議ニ於テ書記局ノ職務ヲ行フモノトス

書記局ノ費用ハ萬國郵便聯合ニ於テ其ノ費用ヲ聯合各員ニ配分スル方法ニ從ヒ聯盟員タル諸國ニ於テ之ヲ負擔ス

第五條 締盟國ノ代表者及聯盟ノ役員ハ聯盟ノ事務ニ從事中外交官タルノ特權ヲ享ケ又聯盟ノ諸會議出席中ノ代表者ハ治外法權ノ特典ヲ享クヘシ

第六條 本盟約ノ調印國ニ非サル諸國ハ代表者團ノ三分ノ二ヲ下ラサル同意ヲ得ルニ非サレハ聯盟ニ加入スルコトヲ得ス聯盟ニ加入スルコトヲ得ヘキ國ノ陸海軍ノ兵力及軍備ハ聯盟ニ於テ隨時定ムヘキ基準ニ遵由スルヲ要ス

第七條 聯盟國ハ外部ノ侵略ニ對シ聯盟各國ノ領土の並現在及將來ニ於ケル政事の獨立ヲ尊重シ之ヲ保持スルコトヲ期ス

第八條 締盟國ハ平和維持上其ノ軍備ヲ國內ノ安寧並國際的義務ノ共同履行ニ差支ナキ最低限度迄削減スルノ必要ヲ認メ追テ其ノ削減ニ關スル實施方案ヲ作成スヘシ

強制徵兵制度ヲ撤廢シニ代フルニ志願制度ニ由リ募集セル軍隊ヲ以テスルコトノ實行能否並維持スルニ正當理由アリト認ムヘキ陸海軍備ノ程度ニ付攻究スヘシ

締盟國ハ其ノ一切ノ兵備並其ノ財政計畫ノ改革ヲ全部廢滅ナク公表スヘキコトヲ約定ス

第九條 戰爭若ハ開戦ノ危險アル場合ハ直接締盟國ニ影響アルト否トヲ問ハス總テ之レ世界平和ヲ任トスル聯盟ノ關涉事項タルコトヲ宣言ス

國際的平和若ハ平和ノ基礎タル各國間ノ情誼ヲ擾亂セムトスル事態ヲ生シタル場合ハ總テ之ニ就キ代表者又ハ聯盟ノ

注意ヲ喚起スルコトハ締盟國ノ權利ナルコトヲ宣言シ且之ヲ約ス

第十條 締盟國ハ其ノ相互間ニ於ケル紛争ニシテ外交上ノ普通手段ニ依リ解決スル能ハサルモノアルトキハ先ツ其ノ問題又ハ關聯事件ヲ仲裁々判若ハ執行委員會ノ審査ニ附シ其ノ仲裁判決若ハ執行委員會ノ勸告アリタル後三箇月ヲ經過スルニ非サレハ如何ナル場合ニ於テモ兵力ニ訴ヘサルコトヲ約ス三箇月後ト雖判決若ハ勸告ヲ遵守セリト聯盟ニ於テ認メタル場合ハ尙兵力ニ訴ヘサルヘシ(此ノ項中ニハ原文ニ不明ノ箇處アリ)

第十一條 締盟國ハ其ノ相互間ノ紛争若ハ不和ニシテ其ノ仲裁々判ニ附スルニ適スルモノト認メ且外交上ノ手段ニ依リ圓滿ニ解決スル能ハサルモノアルトキハ全事件ヲ仲裁々判ニ附シ全力ヲ以テ其ノ判決決定ヲ執行スヘキコトヲ約ス

第十二條 常設國際司法裁判所ノ設置案ハ執行委員會ニ於テ之ヲ作成ス右裁判所ノ權限ハ當事國ニ於テ前條ニ規定スル仲裁々判ニ附スルモノニシテ該裁判所ニ附議スルニ適スト認メタル事項ヲ審理判定スルモノトス

第十三條 聯盟國タル國家間ニ前記仲裁々判ニ附セラレサル紛争發生シ交渉斷絶ニ至ルノ虞アル場合ニ於テハ締盟國ハ該事件ヲ執行委員會ニ附議スヘキコトヲ約ス紛争兩事國ノ何レノ一方ト雖紛争ノ存在ヲ主事ニ通告スルコトヲ得ヘク主事ハ右ニ關シ充分ナル審査並商量ヲ爲サムカ爲必要ナル一切ノ準備ヲ爲スヘシ此ノ趣旨ニ基キ當事國ハ一切ノ關係事實並書證ヲ添附シ該事件ニ關スル説明書ヲ主事ニ送附スヘキコトヲ約ス執行委員會ノ努力ニ依リ紛争ノ解決ヲ見タルトキハ適當ノ説明ヲ附加シテ紛争ノ性質及解決ノ條件ヲ指示スル説明書ヲ公表スルノ用意ヲ爲スヘシ若紛争ニシテ解決ニ至ラサルトキハ紛争解決ノ爲ニ執行委員會ニ於テ正當且適當ナリト思料セル勸告ニ附スルニ必要ナル一切ノ事實及説明ヲ具備シタル執行委員會ノ報告ヲ公表スヘキモノトス執行委員會ニ於テ紛争當事國以外ノ國家ヲ代表スル委員カ全員一致ヲ以テ報告ヲ可決シタルトキハ締盟國ノ何レノ一國モ右勸告ニ從ハムトス當事國ニ對シ開戦セサルヘキコトヲ約ス此ノ如キ全員一致ノ報告成立セサルトキハ過半数委員ハ其ノ義務トシテ其ノ事實ト信スル所ヲ指示シ正當ニシテ適當ナリト思料スル勸告ヲ記載セル説明書ヲ作成スヘシ執行委員會ハ本條ニ規定スル何レノ場合ニ於テモ紛

争ヲ代表者團ニ附議スルコトヲ得紛争ハ兩當事國ノ請求アルニ於テハ如何ナル場合ニモ之ヲ代表者團ニ移スヘシ(不明)

執行委員會ノ行動並權限ニ關スル本條ノ規定ハ總テ代表團ノ行動並權限ニ關シテモ之ヲ適用ス

第十四條 締盟國中ノ何レノ國ト雖聯盟ニ於テ第十條ニ規定シタル盟約ニ違反シ若ハ之ヲ無視シタリト認メタルトキハ右ノ事實ニ據リ該國家ハ他ノ締盟國ノ全部ニ對シ戰爭行為ヲ行ヘルモノト看做サルヘク他ノ締盟國ハ違反國ニ對シ直ニ一切ノ貿易若ハ信用關係ヲ斷チ其ノ國民ト盟約違反國民トノ一切ノ交通ヲ禁止シ且該國民ト他ノ國民(聯盟國タルト否トヲ問ハス)トノ一切ノ財政通商若ハ個人的交通ヲ能ク限リ禁遏スヘシ

斯ル場合ニ於テハ執行委員會ハ聯盟々約防護ノ爲最モ實效アルヘキ強力ノ行使ヲ勸告スルノ義務アルモノトス尙締盟國ハ本條ノ規定ニ基キ執ラルヘキ財政的並經濟的措置ノ實行上生スヘキ不便及時間ノ損失ヲ最少限度ニ止ムルカ爲其ノ措置ニ關シ相互ニ支援ヲ與フヘキコト而シテ盟約違反國ニ於テ締盟國中ノ一國ニ對シ執リタル特殊ノ措置ニ抗拒セムカ爲相互ニ支援スヘキコト及聯盟ニ屬スル他ノ締盟國ト協賛行動セル締盟國ノ何レノ兵力ニ對シテモ自國領域内ニ於テ通路ヲ供與スヘキコトヲ約ス

第十五條 聯盟國ト非聯盟國トノ間又ハ非聯盟國相互間ニ紛争發生シタル場合ニ於テハ締盟國ハ右非聯盟國ノ一國又ハ數國ニ對シ當該事件ノミニ關シ聯盟員タラムコトヲ招請シ右招請ニシテ受諾セラレタルトキハ前顯諸規定ニ聯盟カ必要ト看做セル變更ヲ加ヘテ之ヲ適用スヘキコトヲ約ス

右招請ヲ爲シタルトキハ執行委員會ハ直チニ紛争ノ事情並採否ニ關シ審査ヲ開始シ其ノ狀況ノ下ニ於テ最モ妥善ニシテ且有效ト思料セラレル行動ヲ執ラムコトヲ勸告スヘシ

被招請國カ當該事件ノミニ關シ聯盟員タルコトヲ拒ミ聯盟國ニシテ之ヲ行フニ於テハ第十條ノ規則違反ヲ構成スヘキ行為ヲ聯盟國ニ對シ行フトキハ締盟國カ之ヲ行ヘル場合ト同シテ第十四條ノ規定ノ適用ヲ受クヘシ

紛争國雙方カ右ノ招請ヲ受ケタル場合ニ當該事件ノミニ關シ聯盟員タルコトヲ拒ミタルトキハ執行委員會ハ戰闘行爲ヲ防止シ且紛争ノ解決ニ至ルヘキ行動ヲ執リ且勸告ヲ爲スコトヲ得

第十六條 締盟國ハ共同利益ノ爲兵器及彈藥取引ノ監督ヲ必要トスル諸國トノ該貿易ニ對スル一般の監視ヲ聯盟ニ委任ス

第十七條 締盟國ハ從前獨逸帝國若ハ土耳其國ニ屬シ且現在ニ於テ安固ナル政治ノ恩惠ニ浴スル能ハサル諸民族ノ居住スル領域ニ關シ是等諸民族ノ福祉カ文明ニ對スル神聖ナル信任ヲ構成シ聯盟國ハ右民族ノ施政ノ發達ニ關シ援助及指導ヲ與フヘキ義務ヲ有スルモノナルコトニ意見合致シタリ

締盟國ハ施政上及經濟上ノ發達ニ關スル一切ノ政策ハ主トシテ人民自體ノ利益ヲ考慮スルコト並領域ノ經濟的資源ノ利用及開發ニ關シテハ締盟國全部ニ對シ門戶開放、機會均等主義ヲ維持スルヲ以テ其ノ基礎ト爲ササルヘカラサルコトヲ認ム

領域内住民ヲ以テ防禦並國內警察ノ目的ノ爲必要ナル限度ヲ超ユル陸海軍ノ編成ヲ許サス

第十八條 締盟國ハ各其ノ管轄區域内ニ於ケル一切ノ勞働者ニ對シ公正ナル勞働時間及人道的勞働條件ヲ規定シ且之カ維持ニ努ムヘシ而シテ其ノ産業的及通商の關係ノ及フ地域ニ於テ締盟國ハ必ス類似ノ政策並保障ノ採用維持セラルル様盡力スヘシ更ニ締盟國ハ國際の見地ニ於テ産業及勞働狀態ヲ調査シ且本件ニ關スル勸告ヲ爲サシムルカ爲ニ委員ヲ任命スヘシ而シテ該勸告ハ現行規約ノ擴張及改善ヲ包含スルモノトス

第十九條 締盟國ハ信教ノ自由ニ對シ之ヲ禁止又ハ干渉スル法律ヲ制定シ且如何ナル宗教ノ特殊の信條若ハ特殊の信仰ヲ奉スルヲ問ハス其ノ宗旨ノ公ノ秩序及公道ニ反セサル限り之ヲ奉スル者ニ對シテ法律上又ハ事實上毫モ差別的待遇ヲ與ヘサルコトヲ約ス

第二十條 (不明)

第二十一條 締盟國ハ聯盟國タル諸國家間ニ締結セラレタル一切ノ條約又ハ國際的約定ハ直チニ主事ヲシテ之ヲ登録セシメ且可成速ニ之ヲ公表セシムヘキコトヲ約ス

第二十二條 締盟國ハ本盟約ノ規定ト兩立セサル締盟國間ニ於ケル一切ノ義務ハ本盟約ニ依リ廢棄セラレタルモノトシテ本盟約ヲ承認スヘキコトヲ各自約定シ且今後本盟約ト相容レサル約定ハ何等締結セサルヘキコトヲ誓約ス
調印團若ハ後來聯盟ニ加入シタル國家ニシテ本盟約脫退以前ニ於テ本盟約ノ規定ト相容レサル義務ヲ負フノ已ムヲ得サルニ至リタルトキハ該國家ハ斯カル義務ノ免除ヲ求ムルカ爲メ直チニ必要ナル措置ヲ執ルノ義務ヲ有ス

(聯盟案以上)

(二) 佛「ブルジョア」氏ノ討議尙早論及會合ノ性質ニ關スル疑義

本案ハ唯今初メテ承知スル所ニシテ其佛譯文モ無ク且又講究ノ時間ヲモ與ヘラレスシテ直ニ討議ニ入ルモ意見ヲ述フルニ由ナシ加フルニ今日ノ會合ノ性質ハ如何ナルモノナリヤ若シ國際聯盟委員會ノ第一回會議ナリトセハ同書記局アルニアラスヤ

(三) 伊「オルランド」英「セシル」卿ノ討議開始贊成

本案ハ各國案ノ比較講究ノ結果ニ成レルノミナラス聯盟組織ノ大綱ニ付各國ノ意見大體一致シ居ルヲ以テ直チニ討議ニ入ルモ差支ナカルヘシ

(四) 米「ウヰルソン」ノ主張

「ウ」氏ハ本日ノ會合ハ第一回ノ非公式會合ニ過キサルカ書記局ヲ有スル正式會議ハ却テ討議ノ内容外間ニ漏ルルノ虞アリ旁々單ニ友人間ノ會合トシテ腹藏無キ意見ノ交換ヲ目的トスルモノナリト辯解ス

(五) 夫ヨリ各大國委員並小國委員ノ論議應答アリタルカ要之「ウヰルソン」、「セシル」卿「オルランド」ハ頼リニ本問題解決ヲ急キ「ブルジョア」及佛國委員ハ慎重講究ノ必要アル事ヲ主張スルニ至リ結局「ウヰルソン」ノ提議ニ基キ今後毎夜

八時半「ホテル、クリヨン」ニ會合スル事ニ決定ス

(六) 牧野男ノ陳述

於是男ハ國際聯盟ノ相談ニ付テハ出來ル丈ケ協力スル考ナルカ一旦此條約ヲ締結シタル以上ハ充分之ニ從テ義務ヲ履行シタキ希望ナルニ付豫メ政府ニ於テモ相當ニ慎議シ置ク必要アリ從テ結局政府ノ決定ヲ得サレハ聯盟ノ事ニ付テハ確定シ能ハサル所ナリト述ヘタルニ大統領ハ右ニ對シ素ヨリ最後ハ政府ノ決定ヲ要スルハ當然ノ事ナリト述ヘタリ

○爾後ノ國際聯盟委員會

國際聯盟委員會ハ爾後連日「ホテル、クリヨン」ニテ開催中ナルカ國際聯盟原案討議ノ際各國委員ノ表示セル意見中參考トナルヘキモノ次ノ如シ

(一) 國際聯盟ノ名稱

該名稱ニ付「リーグ」、「ソサエチイ」、「ユニオン」、「ネイションズ」、「ステイツ」等ノ文字ノ適否ニ付議論アリタルカ結局各國ニ於テ行ハレ來レルモノヲ改ムルハ強ヒテ其必要ヲ認メサルノミナラス内容ニ變化アリタルヤノ誤解ヲ招クノ虞アリトノ理由ニテ從來ノ例ニ依リ英語ニテハ「リーグ、オブ、ネイションズ」(League of Nations) 佛語ニテ「ソシエテ、デ、ナシオン」(Société des Nations) ノ語ヲ用フルコトニ決定セリ

(二) 執行委員會ノ構成異議

第三條討議ノ際本條ニ規定セル執行委員會ヲ五大國ノ代表者ニテ組織スルコトハ小國ノ權利ヲ無視スルモノナリトテ小國側委員ヨリ強硬ニ抗議シタルニ佛國及伊國委員ハ反對説ヲ述ヘタルモ結局同委員ヨリ小國代表者二人ヲ加フルノ案ヲ提出セリ然レトモ白耳義委員ハ大國政府委員ト同數即チ五人トナサント主張シ塞爾比委員ハ四人ヲ適當トスヘシト述ヘ

佛國委員之ニ賛成シタルカ何等決定ニ至ラス人數ノ問題ハ更ニ攻究スルコトナレリ

(三) 國際聯盟委員會小國委員増加

該委員會ニハ五大國委員十名ノ外ニ白耳義、伯刺西爾、支那、塞爾比及葡萄牙ノ委員加ハリ居タル處小國側ヨリ四人ヲ増加シ「チエツク、スローザアツク」、希臘、波蘭及羅馬尼ノ委員ヲ加ヘタキ旨ヲ申出テ國際聯盟委員會及五大國會議ノ議ヲ經テ二月七日ノ會議ヨリ新ニ四人出席スルコトナレリ

(四) 聯盟新加入國ノ具備スヘキ條件

第六條討議ノ際次ノ論議アリ

イ、民主的タルヲ要スルヤ

「ウヰルソン」新ニ加入スヘキ國ハ實質上民主的ノ性質ヲ有セサルヘカラスト述ヘ佛國委員「ブルジョア」及「ラルノード」氏ハ實際自由ノ國民タルヲ要スルモ其意味ヲ文句ニ云ヒ表ハスハ極メテ困難ナルコトヲ指摘シ改メテ案文ヲ考究スルコトナリタルカ其節「ラルノード」氏ハ單一一例トシテ日本ノ如キハ憲法上内閣會議ニ對シ責任ヲ有セサルモ自由國タルヲ失ハスト説明シ牧野男ヨリモ一應ノ説明ヲ與ヘ「ウヰルソン」大統領モ全然見解ヲ同シクスルノ意ヲ表セリ

ロ、獨逸等ノ加入條件

佛國委員ハ新タニ加入スヘキ國ハ其負ヘル義務ヲ完全ニ履行シタル後ニ非サレハ加入ヲ許スヘキモノニ非ストテ獨逸ハ講和條約ニ依テ負フヘキ義務ヲ履行シタル後初テ聯盟ニ加入シ得ヘキモノナルコトヲ陳述セリ

(獨逸其他ノ敵國ヲ當分聯盟ニ加エサルノ主義ニ付テハ別段議題トナリタルコトナキモ既ニ聯合側確定ノ了解アル次第ナリ)

(五) 第八條「國內ノ安寧」修正(牧野男提議)

牧野全權ヨリ第八條「國內ノ安寧」(「ドメスタチック、セーフタイ」)ノ文字ハ意義狹キニ失ス聯盟ノ規定ニ考フルモ第三國ノ侵略ニ遭遇スル場合ヲ想像セサルヘカラス其ノ外部ヨリ來ル危險ニ對スル安全ヲ包含スルコトヲ明カニスル爲「國家ノ安全」(「ナシヨナル、セーフタイ」)ト改メンコトヲ提議ス之ニ對シ「ウヰルソン」ハ必要ノ兵數ヲ決定スルニ當リテハ各國特種ノ事情ヲ顧慮スヘク外部ヨリ來ル突然ノ危險(Sudden danger)ニ對スル防衛ハ本文ニ包含セシムル趣旨ナルノミナラス「ナシヨナル」ハ不當ニ廣ク解セラルル虞アリ好マシカラストノ意見ヲ述ヘタリ之ニ對シ珍田全權ヨリモ「ナシヨナル」ノ方明瞭ニ所期ノ意義ヲ表示スヘキ旨ヲ指摘シ「セシル」卿ヨリハ我主張ヲ支持シ必要ノ兵數ハ何レノ途執行委員會(Executive Council)ニテ決定スルモノナルカ故ニ差支ヘナカルヘシト述ヘ大統領モ終ニ其主張ヲ棄テテ一同異議ナク「ナシヨナル」ノ文字ヲ採用スルコトナレリ

(六) 徵兵制度廢止攻究ノ項削除並軍備制限問題

第八條中徵兵制度廢止ノ件ニ付「オルランド」氏ハ徵兵制度ヲ廢止スルトキハ最モ富メル國ハ即最モ強キ國トナルヘシトテ右廢止ニ反對ノ意見ヲ示シ尙是ヲ講究スルコトト爲スモ強ヒテ條文中ニ明記スルノ必要ナシト述ヘ原案「強制撤兵制度ヲ撤廢シ」以下(原文「to be」以下)ハ之ヲ削除スルコトナリタルカ「ブルジョア」氏ハ佛國ニ於テハ徵兵義務ハ普通選舉制度ト相俟テテ民主主義ノ基礎ヲ爲シ之カ廢止ハ到底同意シ得ヘキモノニ非サルコトヲ最モ強硬ニ明言セリ尙同氏ハ軍備制限ハ兵數ノ制限ノミナラス軍需品ノ製造ニ付制限ヲ設ケサルヘカラス是カ爲ニハ私立ノ兵器製造所ヲ廢止スルコト必要ナリ國際聯盟成立セハ永世中立ハ勿論戰時ニ於ケル中立ナルモノモ存在セサルヘキヲ以テ兵器彈藥ノ賣買讓渡ハ各國政府間ニ於テ是ヲ爲スモ中立義務ニ反スルコトナシト述ヘ尙「ラルノード」氏ハ佛國ハ其安全ニ付十二分ノ保證ヲ得タル上ニ非サレハ國際聯盟ニ入ルヲ得ス即チ國際軍隊ナルモノ成立シ主トシテ危險ニ對スル保障トナラサルヘカラス又普通製造所ニシテ直ニ軍需品製造所ニ變更シ得ヘキモノ特ニ製鐵所ニ對シテハ嚴重ナル監視ヲ要スヘク又鐵道ニ就ラモ所謂戰略的鐵道ニ對シテ十分ノ注意ヲ拂ハサルヘカラスト述ヘタリ

損害補償委員會

○損害補償委員會第一次會合

一、日時 二月三日自午後三時

一、場所 佛國大藏大臣官邸

一、出席者 日本側ヨリ森、深井兩委員(長岡委員缺席)

一、内容 佛國大藏大臣「クロツツ」氏座長トシテ開會ヲ宣シ簡單ナル歡迎辭ヲ述ヘ次テ議事アリ

甲、役員選舉

一、議長、佛「クロツツ」(英「ヒュース」)發議、白米委員賛成演述、滿場一致可決)

二、副議長、英「ヒュース」、白「ヴァンテンヒューヅエル」(佛國側ノ發議)

三、書記局ノ組織

米國委員ハ別ニ考慮スル所アリ書記局ノ組織其他事務ノ進行方法ニ付ラハ次回ニ延期スルノ可ナルヲ述ヘ未決定ニ了ル

乙、議事進行ノ件

議事進行ニ關シ議長ハ先ツ本問題審議ノ基礎タルヘキ原則ヲ考究シ然ル後ニ其ノ細目ニ入ルノ便利ナルヲ述ヘ參考ノ爲議案ノ文書ヲ配布シ次ノ會議ニ於テ諸委員ヨリ意見ヲ述フルノ便ニ供シタリ

閉會後議長ハ五大國ニ於テ諸般ノ打合せ會ヲ開キ度キ故明四日各大國ヨリ委員一人宛ノ出席ヲ求メタルヲ以テ日本ヨリハ森委員出席スヘキコトヲ回答セリ

○損害補償委員會第二次會合

一、日 時 二月四日自午前十一時至午後

一、議 題

甲、午前ノ部

五國委員打合會(森委員出席)

二月三日ノ議長ノ招請ニ基キ開催セラレ書記局及分科會ノ組織案ヲ議定セリ

乙、午後ノ部

委員本會議(森、長岡兩委員出席)

決定事項

一、委員増加

本委員會ニハ五大國ノ外白、希、波、塞、羅ヨリ各二名ノ委員ヲ列席セシムルコトトナリ居ル處二月三日ノ五大國會
議ニテ是ニ「チエツク、スロバツク」委員二名ヲ追加スルニ決シ此ノ旨報告サル

二、書記局、會議錄、正式用語

書記局委員ハ英佛兩國各二名トス

英佛語ニテ會議錄ヲ作成ス

會議ノ正式用語ハ總會議ノ決定ニ俟ツモノトス

三、三分科會ノ設置

管掌事項及委員夫々次ノ如シ

イ、損害評價(Evaluation des dommages)……本委員會參列各國ヨリ各一名

ロ、敵國ノ財政能力並仕拂及補償方法(Étude de la capacité financière des états ennemis et des moyens de paiement
et réparation)……五大國ヨリ各一名及其ノ他ノ參列國ヨリ合セテ三名

ハ、監督及保證手段(Mesure de contrôle et garantie)……右ニ同シ

四、専門顧問及専門家

參列國ハ専門顧問及専門家ヲ列席セシメ隨時諮詢シ得可シ

五、賠償範圍等ニ關スル原則決定方法

右原則決定ノ爲分科會設立ノ議英米委員ヨリ出テタルモ本問題ハ委員總會議ニ附議スルニ決セリ

○損害補償委員會第三次會合

一、日 時 二月五日

一、出席者 日本側ヨリ森、長岡兩委員

一、議 題 補償ノ原則ニ關スル草案討議

イ、第一回會議ニテ佛國委員ノ配布セル補償ノ原則ヲ掲記セル草案ノ趣旨ハ

(一) 各國ノ法律ハ過誤ニ依リ他人ノ生命身體財產ニ障害ヲ及ホセルモノヲ處罰スルニ一致セルコトヲ述ヘ獨逸民法
ヲ引用シテ損害要償ノ權限ヲ説キ

(二) 獨逸ハ其ノ與ヘタル損害全部ヲ賠償スルヲ要スト論シ

(三) 被害品現存スル場合ニハ當該被害者ハ右物品ニ付先占權ヲ有セサルヘカラス

ト云フニアリ

ロ、然ルニ其ノ時期ニ關シ又意義ニ付質疑百出シ殊ニ英國委員ハ要償ノ權限ヲ討究スルニ當リ敵ノ法典ヲ基礎トスルノ必要ナシト述ヘ

ハ、結局各國ヨリ對案ヲ提出スルニ決セリ

○損害補償委員會第四次會合

一、日時 二月十日

一、出席者 森、長岡、巽(深井氏病氣ノ爲交代)

一、内容

甲、議長ヨリ分科會所屬委員任命ノ通告アリ(本邦第一分科會森、第二分科會巽、第三分科會長岡)

乙、補償ノ原則ニ關スル各國覺書提出

一、論議

第三次會合ノ決定ニ基キ各國ヨリ提出セラレシ各覺書ノ研究ニ入り英國委員ハ自國覺書ノ説明ヲ爲シ獨逸ハ其ノ支拂能力ノ許ス限リ戰費其他一切ノ損害ニ至ル迄直接タルト間接タルトヲ問ハス之ヲ賠償セサルヘカラサル旨ヲ論シタルカ

二、決定

委員會ハ各覺書ノ異同表ヲ作製シ本會ニ於テ討議ヲ爲スニ決ス

三、日本委員ノ方針

日本ハ主義上ノ問題ニ關シ特ニ爲スヘキ主張ヲ有セサルニ付關係委員ハ覺書ヲ提出セス賠償要求範圍ノ最廣キ主張ヲ支持スルノ方針ヲ探レリ

開戦責任及制裁調査委員會(約稱責任委員會)

(Commission de Responsabilité des Auteurs de la Guerre et de Sanction)

○責任委員會第一次會合

一、日時 二月三日

一、場所 佛國內務省

一、出席者

米、「ランシング」

英、檢事總長「サー、ゴケンドンヘフード」

佛、「タルヂユ」

伊、上院議員「シャロイヤ」(Scalaja)

日、長岡參事官、(安達公使ハ未着缺席)

白、塞、羅、希、波、各一名

注意、本委員會ハ大國二名、右述五小國各一名ノ委員ヨリ成ル、但英國ニハ別ニ第一委員差支ノ場合ニ代理出席ス

ヘキ委員一名アリ

一、議題

甲、役員選定

一、議長、「ランシング」

二、副議長、英伊首席委員

三、書記局長、「ラブラデル」(巴里法科大學教授)

四、書記局委員、參列各國ヨリ各一名

乙、三分科會設置

一、各分科會管掌事項ソレソレ次ノ如シ

イ、開戦前後ノ責任ニ關スル法的研究

ロ、戦争中國際法違反行爲ニ關スル法的研究

ハ、右事項ノ調査

二、分科會ノ決定ハ悉ク委員會總會議ノ決議ヲ經サレハ確定セサルコトス

三、議長ハ英「マツセイ」、佛「タルヂユ」、希「ポリチス」ヲ指名シ各委員ノ分科會配屬ヲ協議セシムルコトトセリ

丙、議事公表

當委員會ノ討議事項ハ他聞ヲ憚カルモノ尠カラサル可キニ付議事ノ公表(「コムニケ」ハ極メテ簡單トナスコトニ決ス

丁、犯行史料、犯行者引渡、犯行者名簿

英國第一委員ハ今後休戦延期ノ際獨逸犯行ノ史料タル可キ書類ノ交付ト犯行者ノ引渡ヲ要求スルコト然ルヘク英國ハ右犯行者ノ名簿ヲ有スル旨ヲ述ヘ佛國委員亦佛國ニモ該名簿存在スルコトヲ注意シタリ

○責任委員會第二次會合

一、日時 二月七日

一、出席者 日本側長岡參事官

一、議題

甲、分科及各委員ノ所屬

第一分科會、處罰スヘキ事項ニ關スル分科會——英、米、佛、日

第二分科會、戦争責任ニ關スル分科會——英、佛、伊、白、塞

第三分科會、戦争法規慣例違反及責任ニ關スル分科會——米、日、伊、白、羅

但各委員ハ何レノ分科會ニモ列席スルヲ得ルモノトス(分科構成ハ書記局ノ作製案ヲ基礎トシ委員ノ所屬ハ前回ノ會合ニ於テ議長ヨリ指名セラレタル英「マツセイ」、佛「タルヂユ」、希「ポリチス」ノ作リタル名簿ヲ基礎トシタリ)

乙、議事規則制定

丙、次期休戦延期ノ際敵ヲシテ聯合國ヨリ隨時引渡ヲ要求スヘキ敵人及書類ノ交附義務ヲ負擔セシムル件

イ、英國委員ハ右ニ關シ前會合ニテ爲シタル意見ヲ記載セル覺書ヲ配附シ其末尾ニ右趣旨ノ決議案ヲ掲ケ七日午後開催ノ最高軍事會議ニ該案ヲ本委員會ノ決議トシテ提議シタシトノ動議ヲ出セルニ

ロ、議長「ランシング」ハ軍事關係事項ヲ規定スル休戦條約トノ(脱)決議ヲ爲スノ權限アリヤ否ヤヲ疑フニ付最高軍事會議員タル自分ハ右決議ヲ同會議ニ取次クコト能ハスト述ヘ結局之ヲ五大國會議ニ取次クニ同意シ英國案ヲ採決ニ附シタルニ米國ノ反對アリタルノミニテ成立シ

ハ、希臘委員ノ動議ニ基キ該案ニ高級司令部ハ要引渡人ト指名セラレタルモノノ逃亡ヲ防キ引渡ヲ保障スル爲メ必要ナル手続ヲ執ラレタシトノ希望ヲ追加スルノ案モ亦米國ヲ除キ滿場一致ニテ通過ス

ニ、本件ハ其性質上之ヲ極秘トシ之ニ關スル如何ナル「ヒント」ヲモ外界ニ與ヘサルコトニ取極ム

(附) 日本ヨリノ本委員會書記局員ニ栗山書記官指名セラル

臺灣水路及鐵道ニ關スル國際研究委員會(約稱交通委員會)

○交通委員會第一次會合

一、日時 二月三日午後

一、出席者 五大國及白、伯、支、塞、葡五小國委員

日本ヨリハ松井大使、佐藤大佐

支那ヨリハ王正廷(外ニ交通部特派員及巴里公使館參事官參列)

一、議題

甲、役員指名

佛國土木大臣「クラビエール」ノ主宰ニテ議長以下役員ノ指名ヲ終レリ

乙、會議基礎案問題

- イ、佛國側ハ議案ノ基礎ト成ルヘキ諸項目ヲ列舉シ略其項目ニ從ヒ研究ノ歩ヲ進メタシト述ヘ
- ロ、英國委員モ亦自己ノ思惟スル研究方針ヲ紹介シ次回迄ニ此方針ニ基ク列國間ノ協定案ヲ提議スヘキヲ述ヘ
- ハ、結局右兩委員案ヲ基礎トシテ各委員ニ於テ研究ヲ重ネ次回ノ會議ニ夫々意見ヲ提出スルコトニ決定ス

注意

- 一、右兩委員案ヲ綜合スレハ國際的性質ヲ附スヘキ水路交通路ノ穿鑿、之ヲ適用スヘキ範圍及手段、國際交通ニ關スル取極疏闊港ヲ有セザル諸港ノ交通等ヲ主トシ專ラ歐洲方面ノ問題ニ關スルモノト察セララル
- 二、支那側ハ自ら求メテ本會議ニ委員ヲ出セルヲ以テ或ハ支那ノ交通路ニ關シ何等カ提議ヲ爲スヘキ下心アルヤモ計ラレス

三、松井大使カ散會後英國委員ニ質セル所ニ依レハ西比利亞鐵道ハ東清鐵道ト共ニ二國間ニ通スル鐵道ニシテ國際鐵道ナルヘキモ此等ノ鐵道又ハ支那ノ鐵道ノ如キニ委員會ノ議事ヲ及ホサシムルコトハ英國側ノ全ク考ヘ居ラサル所ナリトノコトニ付同大使ハ支那ニ於ラハ各國共各々鐵道上利害關係ヲ有スルニ付此等ヲ本會議ノ問題トセサル様注意スルコト緊要ナリト述ヘタリ

財政委員會

○財政委員會第一次會合

一、日時 二月四日

一、場所 佛國大藏大臣官邸

一、出席者

佛 「クロツツ」(藏相)

伊 「サランドラ」(Salandra)

英 「モンターギユ」(Montague)(印度大臣)

日 森

二、内容

甲、役員選定

一、議長……「サランドラ」(佛藏相ノ推薦)

二、書記局員……五國ヨリ各一名日本ヨリハ日本銀行員安部四郎

乙、國際聯盟財政部案調査報告主任

佛國藏相ハ第二回總會議ニ提出セル國際聯盟財政部案ニ關シ調査報告ノ任ニ當ルヘキ人ヲ定ムヘキコトヲ提案シ「モンターギユ」氏ヲ推薦シ其承諾ヲ得タリ

丙、討議事項研究

本委員會ノ討議事項ヲ定ムル爲各委員ヨリ各問題ヲ列舉シ之ヲ相互交換ノ上研究スルニ決ス

經濟委員會

○經濟委員會第一次會合

一、日時 二月五日

一、出席者

英 Sir Hubert Lewellyn Smith.
佛 M. Okamoto.
米 Bernard Barnet.
伊 Sr. Crespi.
日 巽

一、内容

佛國委員「クレマンテル」開會ノ辭ヲ述ヘタル後伊國委員ノ發議ニ依リ同氏ヲ假議長ニ推薦シ次回ノ開會日ヲ決議シタル
外重要ナル議事ナク散會セリ

○經濟委員會第二次會合

一、日時 二月八日

一、假議長 佛國商務大臣「クレマンテル」

一、出席者

英佛米伊委員前同ニ同シ

日 福井菊三郎(巽ニ代リ)

一、議題 本委員會趣意書草案討議

イ、伊國委員ノ伊國窮狀陳述

伊國委員ハ伊國刻下ノ經濟上ノ急迫ヲ告白シ國債ハ八百億「リラ」ニ上リテ國富ノ四分ノ三ニ相當シ輸入ハ輸出ノ六倍ニ達シ且ツ農工業地ハ大戰ノ結果荒廢ニ對シ今後六ヶ月間聯合各國ノ莫大ナル援助ヲ得ルニアラスンハ現今ノ伊國經濟狀態ヲ以テシテハ到底平和條約締結ノ協議ニ參加スル能ハスト迄絶叫シタリ

ロ、佛國委員ノ佛國窮狀陳述

佛國委員モ同様佛國ノ窮狀ヲ訴ヘ聯合國ノ力ニ依リ原料運賃財政等各方面ニ互リ經濟的回復ヲ計ルノ必要ヲ切實ニ告白シタリ

ハ、要之

佛伊兩國ノ眞意ハ平和克復後ニ必要ナル議題ヨリモ寧ロ現在ノ窮境ヲ救済スルコトヲ特ニ本會ノ大主眼トシテ趣意書ニ挿入セント勉メタルモノナリシカ各委員協議ノ結果ハ大體ニ於テ左ノ要領ノ下ニ趣意書ヲ草案シ再ヒ議事ニ附スルコト、シテ解散シタリ

(一) 經濟上ノ障壁ヲ排シ貿易ノ均衡公平ヲ計ルコト

(二) 戰爭ニヨリ荒廢ヲ受ケタル國ニ對シテハ原料品製造品ノ供給ニ付當分特殊ノ利便ヲ計ルコト

(三) 中立國及敵國ニ對スル貿易ニ關スルコト

(四) 戰前對敵諸權利義務ノ處置

國際勞働法委員會

○國際勞働法委員會第一次會合

一、日時 二月一日

二、出席者

日 落合、岡

米 「ゴンバアス」、「ロビンソン」

英 「バルンス」、「サー、レルコルムデレウイニユ」

佛 「コリアール」、「ルウシユウ」

伊 「マヨールラキユランシユ」、「ガブリニー」

白 「バンデルウエルド」、「マハイム」

「チエツク、スローヴァツク」

各一名

波蘭

三、内容

甲、佛國勞働大臣ノ演說

開會ニ際シ佛國勞働大臣ハ演說ヲ試ミ委員會ノ任務ノ重大ナルヲ説キソノ目的並手段ニ關シテハ大要左ノ如ク述ヘタリ
(一) 本委員會ハ經濟界ニ於ケル民主主義ノ確立ヲ準備シ國際條約ノ手段ニ依リ勞働ノ威嚴ト自由トヲ保障シ以テ平和會議ノ意義ヲ徹底セシメントスルニ在リ

- (二) 本委員會ハ必要ナル研究調査及決議ニ依リ各國ノ生産關係者ヲ代表スヘキ會議ノ組織ヲ作り此ノ會議ヲシテ國際勞働條例ヲ起案シ且其ノ遵奉ヲ保障セシメントス
- (三) 協議事項ニ付テハ平和會議ヲシテ急速且有效ニ吾人ノ希望スル成績ヲ收メシムル爲先ツ過去ニ於テ同様ノ目的ヲ以テ開カレタル會議ノ事業ヲ再審シテ之ヲ完成シ次ニ勞働者ノ僱使及保護條件ニ關聯スル緊急問題ヲ審議シ是等ノ事項ニ關シテ必要ナル方策ヲ案出セント欲ス

乙、議事

委員會ノ手續ヲ定ム

○國際勞働法委員會第二次會合

一、日時 二月四日

二、議事

甲、英國案ノ提出(案文ハ本日ノ記事末尾ニ在リ)

A 英國委員ハ英國案ヲ議題ト爲スヘキ事ヲ提議シ委員會之ヲ容ル

B 其ノ内容ハ勞働ニ關スル國際會議及事務局ノ組織及手續等概ネ手續ニ關スル規定ヲ主トス

C 英國案ニ關シ大體ニ付テノ討論ヲ終リ逐條審議ニ入りタルカ多少ノ修正ヲ除キ通過ヲ見ルヘキ勢ナリ

乙、佛國案ノ提出

英國案ニ次テ提出セラレタル佛國案ニハ右英國案中ニ規定スル勞働ニ關スル國際會議第一回會議ニ於テ決スヘキ事項トシテ左ノ諸件ヲ擧ケ居レリ

(一) 婦人勞働者ノ夜業禁止及黃燐燐寸製造禁止ニ關スル千九百十六年「ベルン」條約ヲ更新シ且之ヲ一般ニスルコト

(二) 少年勞働者ノ夜業禁止並婦人及少年勞働者ノ一日ノ最長勞働時間限定十時間ニ關スル千九百十三年「ベルン」會議ノ修正案ノ確定調印

(三) 内外國勞働者ノ賃銀及條件(勞働時間、休憩、衛生、安全)ノ均一ヲ保障スル條約準備

(四) 左記目的ヲ以テ條約ヲ準備スルコト

イ、成年男子ノ就業時間ヲ制限シ尙千九百十三年ノ條約ニ於テ婦人及少年勞働者ノ爲メ定メタル勞働時間ヲモ相當

低減スルコトアルヘキコト

ロ、鑛山及火力繼續使用工場ニ於ケル勞働時間ヲ八時間ニ短縮スルコト

ハ、一週ノ最長就業時間及最少休憩時間ヲ規定スルコト

(五) 各締盟國ニ設定スヘキ勞働監督制度、組織及職務ヲ規定ス其ノ報告ハ之ヲ比較スヘキモノトス

(六) 勞働ノ國際事務局設置

又左記改革事項ヲ審査スルノ希望提出セラル

(一) 單獨隨意ニ外國ニ赴ク勞働者ノ移住ノ自由及團體移住ニ關スル規定

(二) 最低年齢ノ一般決定

(三) 勞働者保護ノ範圍ヲ商業及農業勞働者並海員ニ擴張スルコト

(四) 疾病、傷害、老廢及失業ニ關スル保險制度ヲ設ケ且ツ此事ニ付各國ハ其ノ國內ニ於ケル内外國人ヲ同一ニスル

コト

丙、米國案ノ提出

又別ニ米國ノ提出シタル案ハ最モ急進且過激ニシテ其ノ態度亦頗ル強硬ナルカ其ノ主ナルモノ左ノ如ク總テ平和條約中ニ包含セシムルコトヲ要求シ居レリ

- (一) 法律上及實際上人間労働ハ商品ノ一種ニ非ルノ原則ヲ確認スルコト
- (二) 強制労働者ハ當事者カ適當ニ處罰トシテ行フ場合ノ外之ヲ認めサルコト尙陪審制度ヲ設クルコト
- (三) 團結、集會、言論、出版ノ自由權利ハ之ヲ否認シ又ハ制限スヘカラサルコト
- (四) 商船ノ海員ハ船舶カ安全ナル港内ニ在ルトキハ船舶ヲ去ルノ權利ヲ有スルコト
- (五) 十六歳未満ノ少年ヲ使用シ又ハ從業ヲ許可シテ生産シタル物品又ハ商品ニ付テハ其ノ輸出入ヲ禁止スルコト
- (六) 缺
- (七) 工業及商業ニ於ケル労働時間ハ例ヘハ生命財産ニ對シ危險アル場合ノ如キ緊急已ムヲ得サル必要アル場合ヲ除ク外規定時間ヲ超過スルコトヲ得サルコト
- (八) 家庭ニ於テ生産又ハ製造シタル物品ヲ販賣シ又ハ商業ノ目的ニ使用スルコトヲ禁止スルコト
- (九) 適當ナル賃銀即チ該時代ノ文明ニ相當スル生活ノ標準ニ應シタル賃銀ノ仕拂ハルヘキ事ヲ宣言スルコト
- (十) 同一ノ作業ニ對シテハ男女ノ賃銀ハ平等タルヘキコト
- 丁、伊太利案ノ提出

伊太利案ハ八時間労働ヲ要求スルコト佛國案ニ同シク尙工場制度ノ民主化並政府及直接關係アル諸國ノ労働組合協議ノ下ニ移住ノ自由ヲ認めヘキコトヲ要求ス

前記諸問題ハ何レモ引續キ討議セラレ其ノ結果ハ大體ニ於テ提案ト大差ナキ程度ノ決定ヲ見ルヘキ勢ナリ

○労働状態ニ付國際的規約制定ノ爲常設機關創設ニ關スル條約案要旨

(Draft Convention Creating a Permanent Organization for the Promotion of the International Regulation of Labour Conditions)

(英國委員ヨリ國際労働法委員會ヘ提出)

世界平和ヲ目的トスル國際聯盟ハ各國內ニ於ケル各階級ノ繁榮ト満足トヲ基礎トスル場合ニ於テノミ之ヲ樹立スルコトヲ得ヘシ、多數ノ人民ニ對スル不正殘虐窮乏ヲ伴フ労働條件ハ結局世界ノ平和ト協調トヲ威脅スル動因タルヘク故ニ例ヘハ左記ノ事項ニ付各種ノ改良ヲ行フヲ以テ刻下ノ急務トナス

- 一、労働時間ノ制限
 - 二、失業者ノ豫防
 - 三、最低賃銀制
 - 四、職業ニ起因スル疾病及災害ニ對シ労働者ノ保護
 - 五、少年及婦人労働者ノ保護
 - 六、老廢者ノ保護
 - 七、外國ニ於テ從業スル労働者ノ利益ノ保護
 - 八、團體構成自由ノ原則ヲ認ムルコト其他ノ方法
- 若シ一國カ労働ニ關スル人道的ノ條件ヲ採用スル事ヲ拒絕スル時ハ他ノ諸國カ改善ヲ實行セントスル計畫ニ對シ妨害トナルヘキヲ以テ締約國ハ公正人道世界ノ永久の平和ヲ設定スル目的ヲ以テ左記ノ如キ協約ニ同意ス

第一章 組織

第一條 略

第二條 常設機關ハ次ノ二ヨリ成ル

甲、各締盟國代表者ノ總會

乙、國際労働局

第三條 總會ハ必要ニ應シ少クトモ毎年一回之ヲ開ク其會員ハ各締約國ニ就キ三名宛トシ一名ハ政府委員二名ハ僱主及

労働者ノ代表者ヲ以テ之ニ充ツ

各締約國ハ其國內ニ於テ傭主及労働者ヲ最モ善ク代表スル工業的團體協定ノ上非政府委員及顧問ヲ任命スルコトヲ約ス

各委員ハ二名以下ノ顧問ヲ帶同スルコトヲ得(下略)

第四條 政府委員ハ總會ニ於テ二箇ノ投票權ヲ有シ非政府委員ハ一箇ノ投票權ヲ有ス、各委員ハ總會ノ議案ニ付獨立ノ投票權ヲ有ス締約國中ノ一國カ指名ノ權限有ルニ拘ハラス非政府委員ノ一ヲ任命セサル時ハ他ノ非政府委員ハ會議ニ列席シ發言スルコトヲ得ルモ投票スルコトヲ得ス

第五條 總會ハ國際聯盟ノ首都ニ於テ之ヲ開ク

第六條 國際労働局ハ聯盟組織ノ一部トシテ國際聯盟ノ首都ニ設置ス

第七條 國際労働局ハ附屬案ニ依リ任命セラレタル二十四名ヨリ成ル支配部 (Government Body) ノ監督ヲ受ク、支配部ハ時々必要ニ應ジ集合スルモノトス

第八條 國際労働局ニ理事(ディレクター)ヲ置ク理事ハ支配部ノ任命スル處ニ係リ支配部ノ指圖ニ從テ國際労働局ノ事務ノ遂行其他委任セラレタル義務ニ付責ヲ負フ

理事又ハ其代表者ハ支配部ノ各集會ニ出席ス

理事ノ任命セラレル迄ハ附屬案ニ掲ケタル者其任務ヲ行フ

第九條 國際労働局ノ職務ハ次ノ如シ

傭使状態ノ國際的調節ニ關スル各種報告ノ蒐集及分配特ニ國際總會ノ決議ヲ求ムヘキ事項ニ付事前審査ヲ行フコト

總會ヨリ命セラレタル特種ノ調査

總會ニ附セラレルヘキ議案ノ準備

國際的爭議ニ關ジ本協約ノ規定ニ依リ要求セラレル任務ノ實行

國際的利害關係アル工業及傭使問題ニ付佛文及英文ヲ以テ定期刊行物ヲ編輯發行スルコト

第十條 略

第十一條 國際労働局ハ其權限内ノ事項ニ付國際聯盟主事(チャンセラ)ノ補助ヲ受クヘキモノトス

第十二條 略

第二章 手續

第十三條 總會ノ議案ハ支配部之ヲ定ム支配部ハ各締約國政府其他第三條ノ目的ノ爲メニ認メラレタル代表團體ノ爲シタル提議ニ付審議スヘシ

第十四條 理事ハ總會ノ書記トナリ且總會ノ開會ニ先タツ三月前ニ各締約國ニ議案ヲ廻付スヘキモノトス

第十五條 乃至第十七條略

第十八條 總會カ議案ノ事項ニ關シ何カノ提議ヲ承認シタルトキハ此提議ハ國際協約ノ形式中ニ包含セラレルモノトス、此協約ハ最後ノ審議決定ヲ受クル爲メ總會ニ提出セラレヘキモノトス

協約カ投票三分ノ二以上ノ賛成ヲ得タルトキハ總會ニ依リ採用セラレルモノトシ總會ノ議長及理事ノ署名ニ依リ證明セラレタル協約ノ寫ハ國際聯盟幹事ニ寄託スヘキモノトス

締約各國ハ決議事項ニ付總會終了後一年内ニ正式ノ批准ヲ理事ニ通告スルト共ニ議會カ協賛ヲ與ヘサル場合ノ外其實行上必要ノ手續ヲ爲スヘキコトヲ約ス

第十九條、第二十條略

第二十一條 各締約國ハ國際労働局ニ其調印シタル協約ノ規定ノ執行ニ關シ年々報告ヲ爲スヘキコトヲ約ス此報告ハ支配部ノ定ムル一定ノ様式ニ依リ且ツ一定ノ事項ヲ包含スヘキモノトス理事ハ此報告ノ概要ヲ次期ノ會議ニ提議ス

第二十二條 若シ締約國ノ或ル者カ其調印シタル協約ヲ其法權區域範圍ニ於テ如何ナル關係ニ於テナリトモ現實 (Effective) ニ遵奉セシムルコトヲ怠ル旨國際勞動局ニ申告アリタルトキハ支配部ハ此申告ヲ當該被告國ニ通牒シ且ツ 同國ニ之ニ關シ其適當ト認ムル陳述ヲナスヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得

第二十三條 前記被告國ニ關シ相當期間内ニ陳述ヲ受領セサルカ或ハ受領セル陳述書ニシテ支配部ニ於テ満足ト認メサル場合ニハ該部ハ右申告書及之ニ對シナサレタル陳述書有ル時ハ其レヲモ合セ之ヲ公表スルノ權利ヲ有ス

第二十四條 締約各國ハ他ノ締約國ニシテ協約ノ現實ナルニ遵奉ヲナササルモノト認ムル場合ニハ國際勞動局ニ苦情 (Complaint) ヲ提出スルコトヲ得

支配部ハ苦情ヲ適當ト認ムルトキハ査問委員 (Commission of Inquiry) ニ移スニ先タチ當該被告國ニ第二二條規定ノ方法ニ依リ之ヲ通牒スルコトヲ得

若シ支配部ニ於テ斯カル苦情ヲ被告ニ通牒スルコトヲ必要ト認メサルカ又ハ斯カル通牒ヲナシタルニ拘ハラズ之ニ對シ相當ノ期間内ニ苦情提出國カ満足ト認ムル陳述書ヲ受領セサルトキハ支配部ハ該苦情ヲ審査シ之ニ關スル報告ヲナス爲査問委員ノ任命ヲ要求スルコトヲ得

第二十五條 査問委員ハ次キノ如キ規定ニ從ヒ之ヲ組織ス

締約國ハ諸協約實施期日ヨリ六箇月以内ニ工業上ノ經驗アル者三名内一名ハ雇主ノ代表者一名ハ勞動者ノ代表者他ノ一名ハ獨立ノ地位ニアル者ヲ任命スヘシ而シテ斯ク任命セラレタル者ノ評議ニ付査問委員ヲ選任ス

支配部ノ要求アル時ハ國際聯盟ノ幹事ハ代表各部ヨリ一名宛 (佛文ニハ雇主、勞動者ノ代表者及獨立ノ地位ニアルモノトノ註釋アリ) 即チ三名ヲ選任シテ査問委員ヲ組織シ其内一名ヲ委員長ニ指名ス之ノ三名中ノ何レタリトモ苦情ニ直接關係アル國ヨリ任命セラレタルモノタルコトヲ得ス

第二十六條 各締約國ハ第二十四條ニ從ヒ苦情カ査問委員ニ移サレタル場合ニ於テハ該苦情ニ直接關係アルト否トニ不

拘(不明)目的トスル事項ニ關聯シ自己ノ有スル總ヘテノ情報 (Information) ヲ査問委員ニ提供スルコトヲ約ス

第二十七條 査問委員ニ付十分研究ヲ盡シタル時ハ當事者間ニ於ケル係争事件ヲ決定スルニ付關係アル事實ノ總ヘテノ問題ニ涉リ其結論ヲ包含シ且ツ該苦情ニ對シ執ルヘキ手段及其期限ニ付適當ト認ムル意見ヲモ合メル報告ヲ調製スヘシ

若シ又該委員ニ於テ相當ト認メ且ツ他ノ諸國カ之レヲ採用スルコトヲ公正トスル非行アル國ノ商業ニ對シ執ラレヘキ措置アル時ハ (The measure if any against the commerce of defaulting state which it considers to be appropriate and which other States would be justified in adopting) 之ヲ該報告中ニ記述スヘシ

第二十八條 査問委員ノ報告ハ幹事ヨリ該苦情ニ關係アル各國ニ通報シ且ツ之レヲ公表セシムルモノトス是等各國ハ一箇月以内ニ査問委員ノ報告ニ (不明) 採用スルヤ否ヤヲ聯盟幹事ニ通知スヘシ而シテ若シ反對意見ナル時ハ該苦情ヲ國際裁判所 (International Court) ニ移サンコトヲ提議スルヤ否ヤヲモ通知スヘシ

常設國際司法裁判所 (Permanent Court of International Justice) ノ創設セラレル迄ハ本條ニ所謂國際裁判所ハ國際紛争平和的處理協約ニ依リ創設セラレタル常設裁判所ノ裁判官中ヨリ聯盟幹事ノ選任セル仲裁裁判所トス

第二十九條 締約國ノ何レタリトモ第一八條ニ規定シタル措置ヲ所定期限内ニ執ルコトヲ怠リタル時ハ他ノ締約國ハ之ヲ前述ノ國際裁判所ニ持出スコトヲ得

第三十條 苦情ヲ提出セラレタル國際裁判所ノ決定ハ終審トス

第三十一條 國際裁判所ハ査問委員ノ爲シタル決定及意見ノ何レナリトモ之ヲ確認シ、變更シ又ハ取消スコトヲ得、而シテ其決定ニ於テ其適當ト認メ、且ツ他ノ諸國カ之ヲ行フコトヲ公正トスヘキ非行アル國ノ商業ニ對シテ執ルヘキ措置ヲ示スコトヲ得

第三十二條 若シ何レノ國タリトモ所定期限内ニ査問委員ノ報告ニ舉ケラレタル意見又ハ國際裁判所ノ決定ヲ履行スルコトヲ怠リタル時ハ他ノ何レノ國タリトモ該國ノ商業ニ對シ委員ノ報告又ハ裁判所ノ決定ニ於テ右場合ニ適當スルモ

ノトシテ擧ケラレタル措置ヲ執ルコトヲ得

第三十三條 非行アリタル國ハ如何ナル時期ニ於テモ支配部ニ對シ査問委員ノ意見又ハ裁判所ノ決定ニ從ヒ必要ノ措置ヲ執リタル旨通牒シ且ツ其ノ申立ヲ確ムルタメ査問委員ヲ設ケンコトヲ聯盟幹事ニ要求方ヲ申立ツルコトヲ得、此場合ニ於テハ第二五、二六、二七、二八、三〇及三一條ノ規定ハ之ヲ適用セラルヘク、而シテ若シ査問委員ノ報告又ハ國際裁判所ノ決定ニシテ非行アリタル國ニ有利ナル時ハ他ノ諸國ハ該國ノ商業ニ對シ執リタル措置ヲ差止ムヘキモノトス

第三十四條 英帝國ノ自治領土(「セルフ、ガヴァニング、ドミニオンズ、オブ、ゼ、ブリテイヰッシュ、エンパイヤ、」)及印度ハ本條約ニ加入シ之レニ付恰モ獨立國ナルカ如ク同等ノ權利及義務ヲ有スルコトヲ得

第三十五條 本條約ニ加入セサル國家ハ將來國際聯盟ノ一員ト成リタル場合ニハ當然本條約ニモ加入シタルモノトス

第三十六條 本條約ノ規定ノ變更ハ之レヲ總會ノ議ニ附スルコトヲ得然レトモ全會一致ノ同意ヲ得且ツ締約國悉ク之レヲ批准シタル場合ニアラサレハ其(變更ノ)效力ヲ生セス

第三十七條 此ノ條約ノ施行ハ國際聯盟ノ施行ト同時トス

第三十八條 第一回總會ハ出來得ル限リ早ク開會スヘキモノニシテ如何ナル場合ニ於テモ條約ノ施行後六箇月以内トス假理事トシテ指名セラレタルモノハ第一回總會ノ召集及構成ノ責ニ任スルモノトス

第一章 第七條ノ註

國際勞動局ノ會議ノ議員選任ノ方法ハ大體左ノ通又ハ之ニ多少ノ修正ヲ加ヘタルモノタルヘシ

一、政府代表委員十二名内五名(英、米、佛、伊、日)自餘ハ總會ニ依リ他ノ諸國代表者ヨリ選任ス

一、僱主ヲ代表スルモノ六名總會ニ於ケル委員之ヲ選任ス

總テ任期ハ三箇年トス

缺員補充其他類似ノ事項ニ關スル規定ハ總會ノ承認ヲ經テ支配部之ヲ定ム

DRAFT-COVENANT FOR THE LEAGUE OF NATIONS, FORMULATED BY PRESIDENT WILSON.

Preamble. — In order to secure international peace and security by the acceptance of obligations not to resort to the use of armed force, by the preservation of open, just and honourable relations between nations, by the firm establishment of the understandings of international law as the actual rule of conduct amongst Governments, and by maintenance of justice and a scrupulous respect for treaty obligations in the dealings of organized peoples with one another, and in order to promote international co-operation, the Powers signatory to this Covenant adopt this Constitution of the League of nations.

ARTICLE I.

Action of the High Contracting Parties, under the terms of this Covenant, shall be effected through the instrumentality of meetings of Delegates representing the High Contracting Parties, of meetings at more frequent intervals of an Executive Council representing the States more immediately concerned in matters under discussion, and of a Permanent International Secretariat to be established at the capital of the League.

ARTICLE II.

Meetings of the Body-Delegates shall be held from time to time as the occasion may require for the purpose of dealing with matters within the sphere of action of the League.

Meetings of the Body-Delegates shall be held at the capital of the League or such other place as may be found convenient, and shall consist of not more than two representatives of each of the High Contracting Parties.

An ambassador or minister of one of the High Contracting Parties shall be competent to act as its representative.

All the matters of procedure at the meetings of the Body-Delegates, including the appointment of committees to investigate particular matters, shall be regulated by the Body-Delegates, and may be decided by a majority of those present at the meetings.

ARTICLE III.

Upon representations of members of the League, directly affected by matters within the sphere of action, the League will meet as an Executive Council from time to time as occasion may require.

The United States, Great Britain, France, Italy and Japan shall be deemed to be directly affected by all matters within the sphere of action of the League.

Invitation will be sent to any Power whose interests are directly affected, and no decision taken at any meeting will be binding on a state which was not invited to be represented at the meeting.

Such meetings will be held at whatever place may be decided upon or failing any decision at the capital of the League, and any matter affecting the interests of the League or relating to matters within sphere of action or likely to affect peace of the world may be dealt with.

ARTICLE IV.

The Permanent Secretariat of the League shall be established at—, which shall constitute the seat of the League.

The Secretariat shall comprise such secretary and staff as may be required, under the general direction and advice of (2) a Chancellor of the League by whom they shall be appointed.

The Chancellor shall act as the Secretariat at all meetings of the Body-Delegates or of the Executive Council.

The expenses of the Secretariat shall be borne by the States members of League in accordance with distribution among the members of the Postal Union of the expenses of the International Postal Union.

ARTICLE V.

Representatives of the High Contracting Parties and officials of the League when engaged on the business of the League shall enjoy diplomatic privilege and representatives attending its meetings shall enjoy the benefits of exterritoriality.

ARTICLE VI.

Admission to the League of those states who are not signatories of this covenant requires assent of no less than two-thirds of the Body-Delegates. No state shall be admitted to the League except on condition that its military and naval forces and armament shall conform to standards prescribed by the League in respect to it from time to time.

ARTICLE VII.

The High Contracting Parties undertake to respect and preserve as against the external aggression territorial integrity and existing political independence of all members of the League.

ARTICLE VIII.

The High Contracting Parties recognize the principle that the maintenance of peace requires reduction of national armament to the lowest point consistent with the domestic safety and enforcement by the common action of international obligations; and the Executive Council shall formulate plans for effecting such reduction. It shall inquire into feasibility of abolishing compulsory military service and substitution therefore of forces enrolled upon voluntary bases and into the military and naval equipment which it is reasonable to maintain.

The High Contracting Parties further agree that there shall be full and frank publicity as to all national armament and reform of any (?) national financial programmes.

ARTICLE IX.

Any war or threat of war whether immediately affecting any of the High Contracting Parties or not is hereby declared a matter of concern to the League and the High Contracting Parties reserve right to take any action that may be deemed wise and effectual to safeguard peace of nations (?)

It is hereby also declared and agreed to be free right of each High Contracting Party to draw attention of the Body of the Delegates, or of the Executive Council to any circumstances, which threaten to disturb international peace or the good-will between nations upon which peace depends.

ARTICLE X.

The High Contracting Parties agree that should disputes arise between them which cannot be adjusted by ordinary process of diplomacy, they will in no case resort to armed force without previously submitting questions and matters involved either to arbitration or to inquiry by the Executive Council and until three months after the award by the Arbitrator or recommendation by the Executive Council and that they will not even then resort to armed force as against a member of the League which complies with the award of Arbitrator or the recommendation of the Executive Council.

ARTICLE XI.

The High Contracting Parties agree that whenever any dispute or difficulty shall arise between them which they recognize to be suitable for submission to arbitration and which cannot be satisfactorily settled by diplomacy, they will

submit the whole subject-matter to arbitration and will carry out in full good faith any award or decision that may be rendered.

ARTICLE XII.

The Executive Council will formulate plans of establishment of a Permanent Court of International Justice and this Court will be competent to hear and determine any matter which the parties recognize as suitable for submission to it for arbitration under the foregoing article.

ARTICLE XIII.

If there should arise between States members of League any dispute likely to lead to a rupture which is not submitted to arbitration as above, the High Contracting Parties agree that they will refer the matter to the Executive Council; either party to the dispute may give notice to the Chancellor of the existence of dispute and the Chancellor will make all necessary arrangements for full investigation and consideration thereof. For this purpose, parties agree to communicate to the Chancellor the statement of their case with all relevant facts and papers. Where the efforts of the Council lead to settlement of dispute, a statement shall be prepared for publication, indicating the nature of the dispute, the terms of the settlement together with such explanation as may be appropriate. If the dispute has not been settled a report by the Council shall be published, setting forth with all necessary facts and explanation, recommendation of which the Council thinks just and proper for the settlement of the dispute. If the report is unanimously agreed to by the members of the Council other than parties to the dispute, the High Contracting Parties agree that none of them will go to war with any party which complies with its recommendation. If no such unanimous report can be made, it shall be duty of majority to issue statement indicating what they believe to be the fact and containing recommendation

which they consider to be just and proper. Executive Council may, in any case, under this article, refer dispute to the Body-Delegates. Dispute shall be so referred at the request of either party to the dispute in any case to Body-Delegates. All the provisions of this article relating to action and powers of the executive council shall apply to action and powers of the Body-Delegates.

ARTICLE XIV.

Should any of The High Contracting Parties be found by the League to have broken off or disregarded its Covenant under Article X, it shall thereby *ipso facto* be deemed to have committed an act of war against all the other members of the League, which shall immediately subject it to severance of all trade or credits relations, prohibition of all intercourse between their nationals and the nationals of the Covenant-breaking State, and the prevention, so far as is possible of all financial, commercial or personal intercourse between nationals of the Covenant-breaking State and the nationals of any other state, whether a member of League or not.

It shall be duty of Executive Council in such a case to recommend what effective military and naval forces of the member of the League shall severally contribute to the armed forces to be used to protect the Covenant of the League, the High Contracting Parties agree further that they will mutually support one another in the financial and economic measures which are taken under this article, in order to minimize loss of time and inconvenience resulting from above measures, and that they will mutually support one another in resisting any special measure aimed at one of their members by the Covenant-breaking State, and that they will afford passage through their territory to the forces of any of the High Contracting Parties who is co-operating to protect the Covenant of the League.

ARTICLE XV.

In the event of dispute between one State member of the League and other State which is not member of the League or between States not members of League, the High Contracting Parties agree that a State or States not members of League shall be invited to become *ad hoc* members of League, and through acceptance of any such invitations, above provisions shall be applied with such modifications as may be deemed necessary by the League.

Upon such invitation being given, Executive Council shall immediately institute inquiry into circumstances and merit of dispute, and recommend such action as may seem best and most effectual in the circumstances.

In the event of a Power so invited refusing to become *ad hoc* member of League and taking any action against a State member of League would constitute breach of Article X, provisions of Article XIV shall be applicable as against the State taking such action.

If both parties to the dispute when so invited refuse to become *ad hoc* member of League, Executive Council may take such action and make such recommendation as will prevent hostilities and will result in settlement of disputes.

ARTICLE XVI.

The High Contracting Parties entrust to the League the general supervision on the trade in arms and ammunition with the countries in which the control of this traffic is necessary in the common interests.

ARTICLE XVII.

The High Contracting Parties agree that in respect of territories which formerly belonged to the German Empire or the Turkey and which are inhabited by peoples unable at present to secure for themselves the benefits of a stable administration, the well-being of these peoples constitutes a sacred trust for civilization and imposes upon the states,

members of the League, obligation to render help and guidance in the development of administration.

They recognize that all policies of administrative or economic development should be based primarily upon well considered interests of people themselves, upon the maintenance of the policy of the open door and equal opportunity for all the High Contracting Parties in respect of use and development of the economic resources of territory.

No military or naval forces shall be formed among the inhabitants of territories in excess of those required for the purpose of defence and of internal police.

ARTICLE XVIII.

The High Contracting Parties will work to establish and maintain fair hours and humane conditions of labourers for all those within their several jurisdictions and they will exert their influence in favour of adoption and maintenance of a similar policy and like safeguards wherever their industrial and commercial relations extend. Also they will appoint commissions to study conditions of industry and labour in their international aspect and to make recommendation thereon, including extension and [improvements of?] conventions.

ARTICLE XIX.

The High Contracting Parties agree that they will make no law of prohibiting or interfering with the free exercise of religion, and that they will in no way discriminate either in law or in facts, against those who practise any particular creed of religion or belief which principles are not inconsistent with public order and public morals.

ARTICLE XX.

The High Contracting Parties will agree upon provisions intended to secure and maintain freedom of transit for the commerce and just to use for the commerce among the states, members of the League. [本條電文不附]

ARTICLE XXI.

The High Contracting Parties agree that any treaty or international engagement entered into between the states, members of the League, shall be forthwith registered with the Chancellor, and as soon as possible published by him.

ARTICLE XXII.

The High Contracting Parties severally agree that the present Covenant is accepted as abrogating all the obligations *inter se* which are inconsistent with the terms hereof, and they solemnly engage that they will not hereafter enter into any engagement inconsistent with the terms hereof.

In case that any of the Powers signatory hereto or subsequently admitted to the League, shall, before becoming a party to this Covenant, have undertaken any obligations which are inconsistent with the terms of this Covenant, it shall be the duty of such a Power to take immediate steps to procure its release from such obligations.